

Small red square seal in the top left corner.

Large, faint red square seal in the center of the page.

Faint vertical text or markings in the center of the page, possibly bleed-through from the reverse side.

Small red square seal in the bottom right corner.

Large, irregularly shaped greyish area, possibly a stain or a piece of paper pasted over the original content.

Vertical lines on the right edge, likely from the book's binding or gutter.

門凡77
號3355
卷 3

邊要分界圖考卷之四

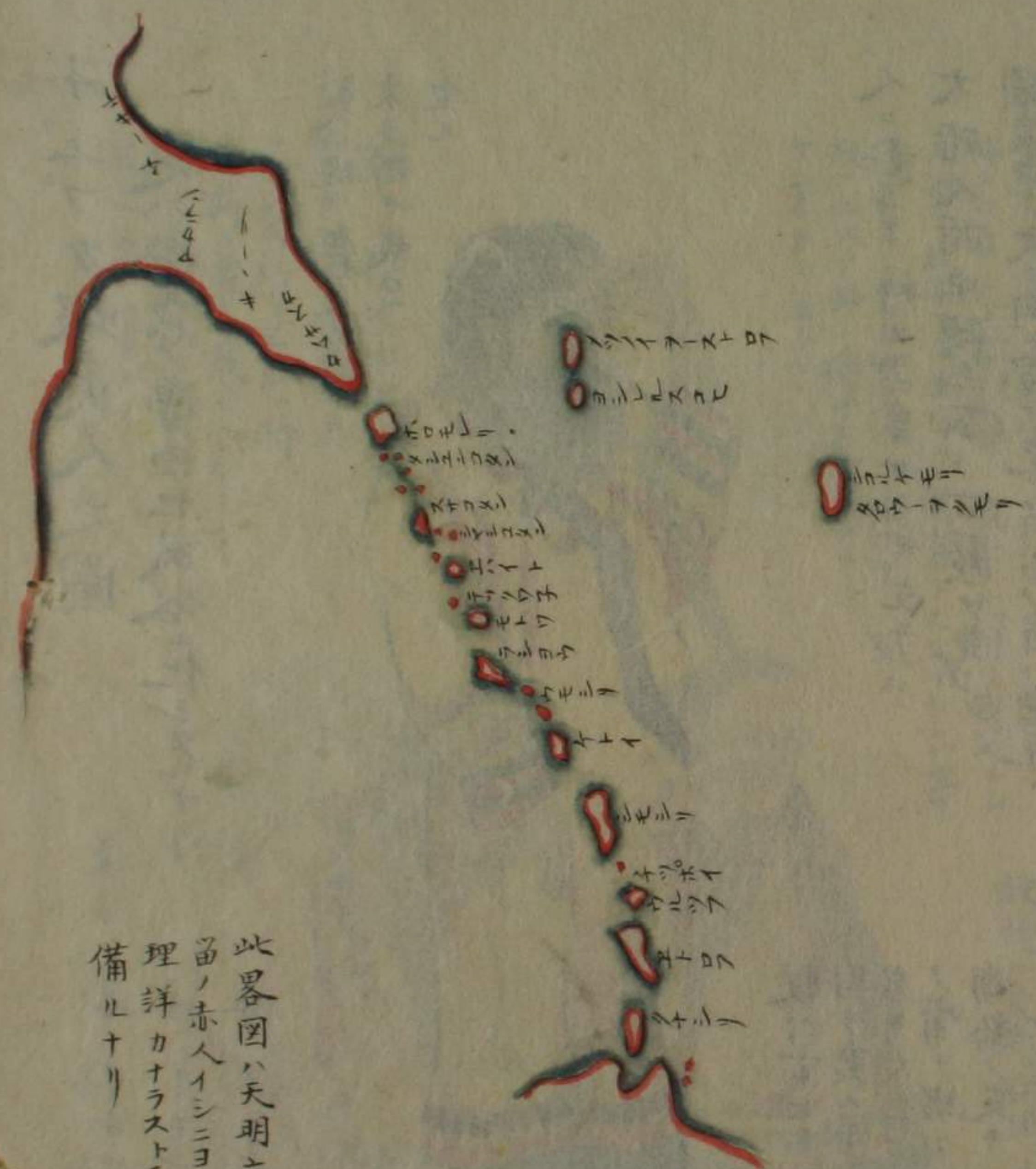


加圖

近藤守重輯

昭和二十七年
七月五日
購求

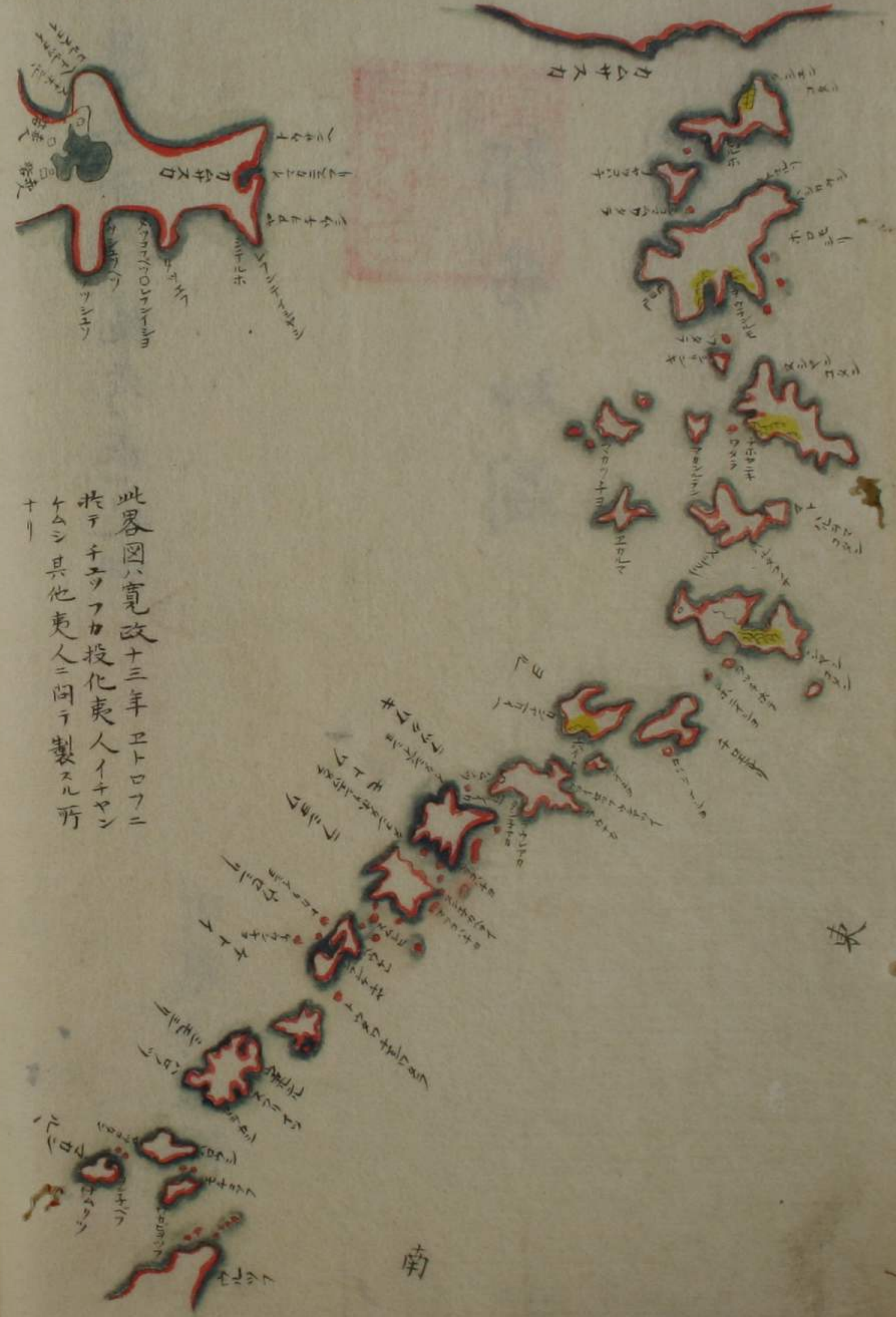
上全



此畧図ハ天明六年見分、時エトロフ滞
留ノ赤人イシニヨニ問テ割取スル所ニ其地
理詳カナラスト云トモ姑ク挙テ参考ニ
備ルナリ

諸嶋之圖

千ユカ



此畧図ハ寛政十三年エトロフニ
於テ千ユカ投化夷人イチヤシ
ケムシ其他夷人ニ問テ製スル所
ナリ

チ。エ。プ。カ。蝦夷人之圖
是ハ蝦夷ノ魯西亜風俗ニ化シタリ

名 イチヤンケムシ
子 イモニケセワクル
妻 イチシヤウシマツ

髪ハ梳テ左右ニ分ケ
末ヲ辨テ後口へ
垂ル



人ニ對シテ并スルニ男ヲトモ立テ
大指人指中指三本ヲ三聚ノ先ツ
額ニ當テ次ニ胸ニ當テ尤ノ肩右ノ肩ト當テ、

服ハエトヒリカノ皮ヲ丸ニムキタルヲ
羽ヲ裏ノ方ニシテ綴リ縫ヒ用エ縁ハ
黒キ犬ノ毛ヲ皮氏ニ切リエトヒリカ
ノ嘴ヲ綴リ附ケ股引ヲ着シ靴ハ
海豹ノ皮テ作ル

後ニ頭ヲウナスキ拜スル

母ニロシヤ人ノ言ニ云指ヲ聚ルト大指ヲ我父トシ
人指ヲ我子トシ中指ヲ我氣トス父ナケハ生セ
ス子ナケハ禽獸ニ若リ氣ナケハ死ス
故ニ三以テ佛ニ禱ル是ヲ名テ
ケレスタト云ト

銃炮ハ火打仕掛ナリ

童子ノ頭間ニ懸
タル十文字ノ鉄
モノニテ糸ヲツケ
頸ニカクル是ハ守
ノ由ニテ是ロシヤ人
教師與ル所ナリ
其名ヲケレスタト
云

銃炮玉藥ハロシヤ人
ヨリ得ル所ナリト云

婦人ノ帽子ハ下地ヲ
厚ク頭中ニ挿ヘ其
上へ更紗ヲ三角ニ折
テ前ニ當テ後口へ
廻シテ結ヒ隅ノ端ハ
後口へ垂レヲクナリ



妻名
イチシヤウシマツ

千エブカ帽子之圖
 皮ニテ作ル裏ハ狐皮ナリ
 千エブカ夷人及魯西亞人
 モ用ル



皮ニテ作ル
 裏ハ狐皮ナリ

帽子



下地ヲサシ面頭巾ニ堅
 ヲ持(ヨキ)上ニ更紗ノ
 服紗ヲ三隅ニ折テ
 前ヨリ後口(田)シ
 結ヒテヲキ隅ノ端ハ
 後口ニ垂レル

エトヒリカ鳥之圖

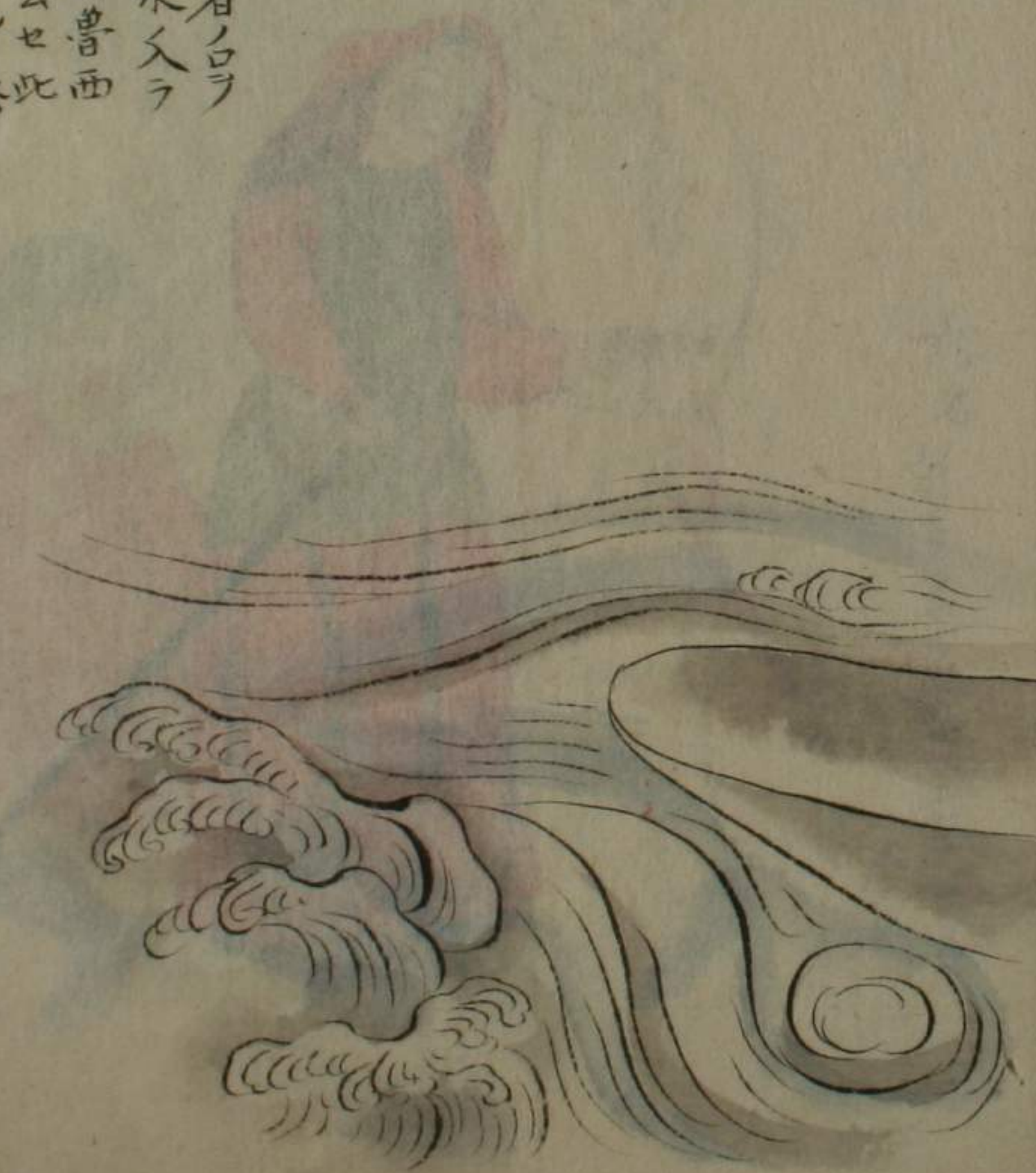
此鳥東ハエト口フ島ヨリ奥
 島々西ハカラフト島ヨリ奥ニ
 多シ大ノ鴨ノ如ク羽黒ク嘴紅
 ニシテ美ナリ故ニ各クエトハ
 嘴ヒリカハ美ノ夷言ナリ



クルムセ夷人草舟ノ圖



小舟ノ骨ヲ楫(皮ヲ包ニ包ニ由着ノロヲ
結リクハ如ニシテ身ヲ容レ風波ニ水久ヲ
此ルヤウニメ切ル蝦夷ハトシドナラフト云昔西
亞ハマイグレイ云夷人云ウツツ嶋ニテクルムセ此
舟ニ乗り弓矢ヲ持テ鳥ヲ逐ナカラ懼ハ左右操
タリ意フニ中ニ糸ナトノ仕掛アリテ足ニテ櫂ヲ
動かスナラシ





長名
 ゴニモリツアラガルハニシゴロウ

四國阿波漂著魯西亞人之圖

明和八年



東夷地アツケシエ波来魯西亞人之圖

安永八年

名 シンサバグン



髪ハ白草糸ヲス、ケタルカ如キ色
ナリ眉毛モ同ク眼中茶色
笠ハ黒ヒロウ下縁ハラフ皮上着ハ
花色羅紗股引ハ白ヒロウ下

手ニサラサノ巾ヲ持テリ太刀ハ
銀ノ鞘柄ハ皮柄ト見ユ鐔
ナシ靴ハ皮ナリ

全上チユカ蝦夷人之圖

魯西亞通詞ヲナス

名 シリイタリ



髪モ眼モ黒シ髪ハ中ヨリ分テ後口工
組ミ下ル耳金ハナシ
上着紺色ノ唐木綿下着萌黄羅紗



エトロフ
島渡来魯西亜人之圖

顔色至ラ白ク髪赤ク丈高ク
眼色茶色鬚ヲ刷ル

天明五巳年ヨリ
寛政ニ亥年マテ 七々年エトロフ滞留

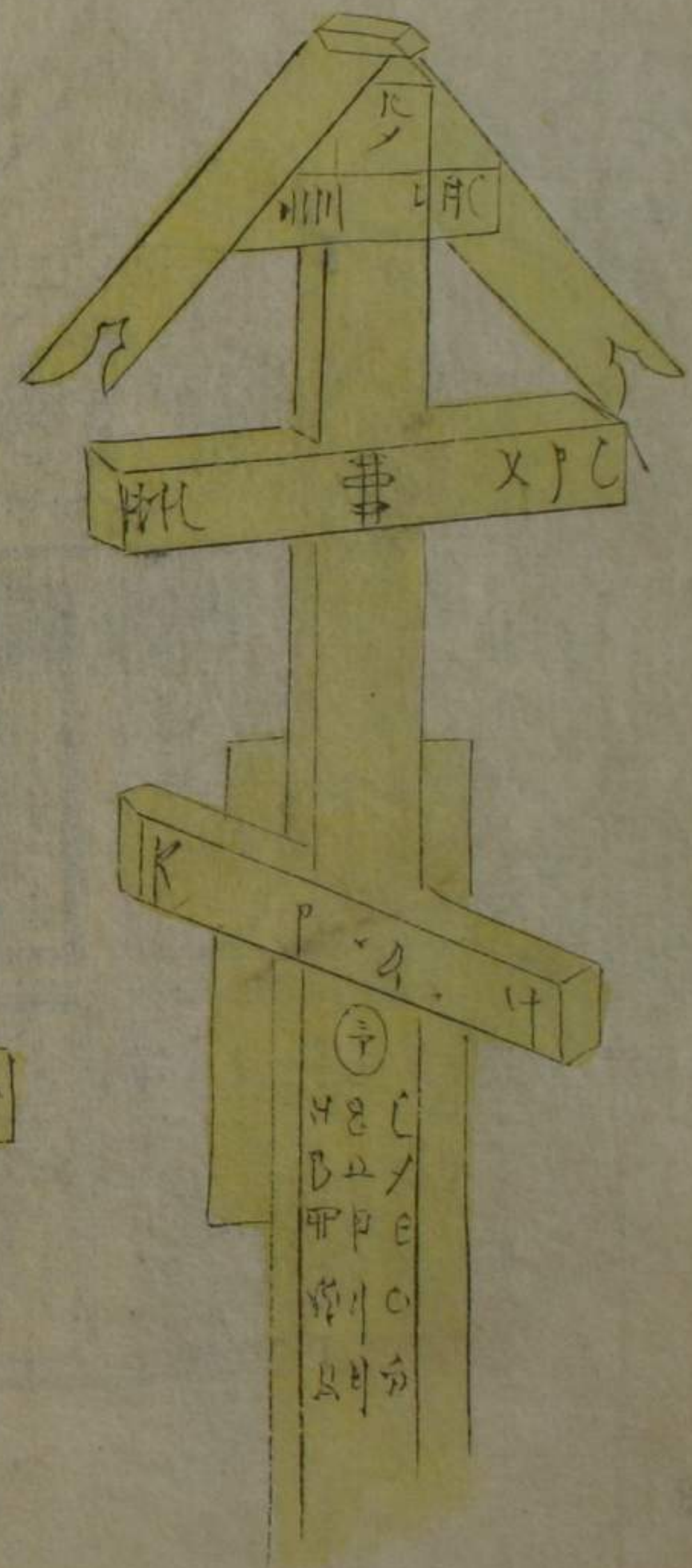
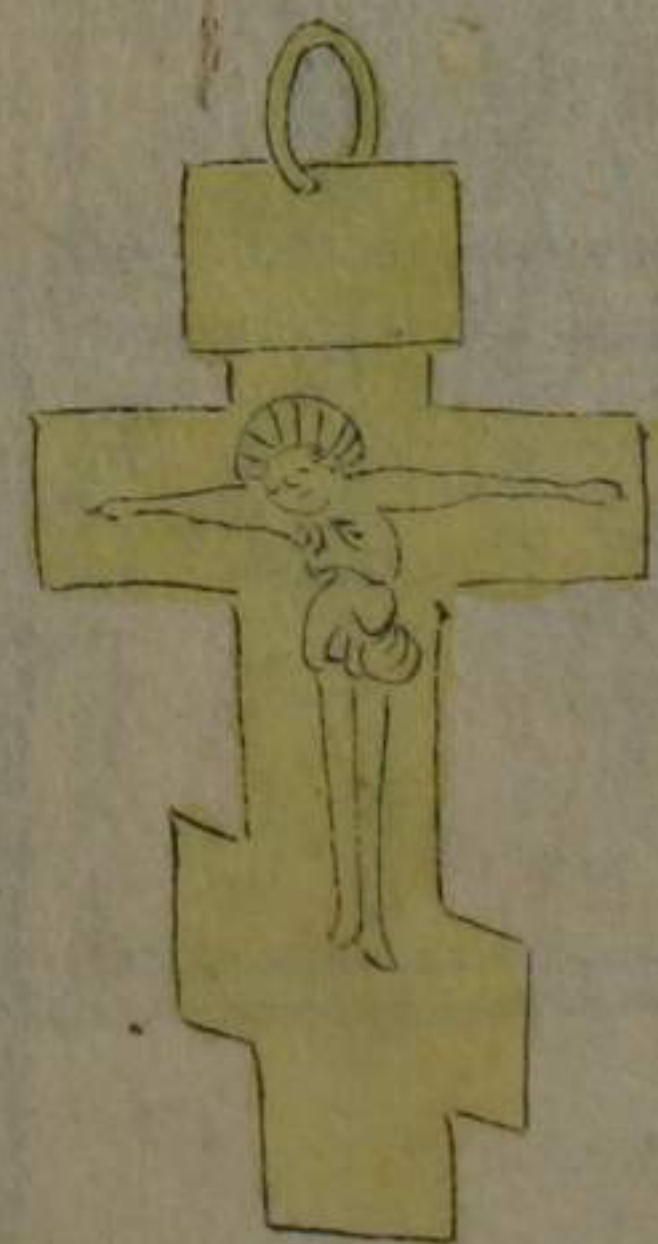
名 シメシントロヘイイシユソフイシユヨ







Handwritten text in a non-Latin script, possibly Arabic or Persian, located in the upper middle section of the left page.



邊要分界圖說卷之四

近藤守重輯

邦弗加考

東海ウルツプ島ヨリ前路シモシリ島ヨリ
 カムサスカ地方ニ至ルマテ凡十餘島島ニ
 當ルニ世ノ所謂千島ニシテ蝦夷人之ヲ称シテ
 千ユブカト云千ユブカトハ日出ル處ト云
 ノ義ナリ蝦夷人ハ日月ヲ指テ千ユブカム
千ユブカモイトト云魯西亜国ノ主ヲ称シテ
トノト云共ニ日出ル處ノ人ト云一ナリ一

説ニ初ロシヤ人諸島ニ来ル時夷人ニ語テ
曰我國ノ帝王ハ日月ノ尊ガ如シト故ニ夷
人チユブカカムイト稱シ其属
島ヲチユブカト云ト亦通ス

蠻書ニ紅毛千七百六十之ヲクリル諸島ト
云アリ其クルハ蝦夷ノ一種ニクルムセト云フ
リ蠻書ニ云カムサスノ夷人ノ島ニト云フ
西ノ日本ノ方マテ大小ノ島連続シタルモ
ノ大凡二十五一三三六其餘ハ詳ニシガ
タシカムサスガニ近キハ皆魯西亞ニ属ス
其島大ナルモノ十六小ナルモノ無數古昔
ミナ我蝦夷ノ属島タリシニ八十年前
魯西亞人カムサスガヲ併吞シテヨリ漸ニ

ニ諸島ヲ蚕食シテ三十年前ヨリシモジリ
近ヲ服従シテ其島ニノ名ヲ改テ尽ク魯
西亞ノ名トナシ二十年前ヨリ夷人ノ風俗
ヲ易テ魯西亞ノ風俗トナシ往古ヨリ
日本ニ属セシ蝦夷人ヲシテ髮ヲ辮ミ帽子
ヲ被リ股引ヲ用ヒ靴ヲ穿チ鉄炮玉薬ヲ與
ヘ魯西亞人ノコトバラ使ヒ魯西亞ノ佛ヲ頭ニ
カケ魯西亞ヨリ役人并ニ教法師ヲシテ
師ヲ夷人ハヨウウウシイシヤムト云フ
時ニ諸島ニ至リ撫順

セシメ其夷人モ魯西亜ニ貢ヲ入ルニ至ラシメ十年
前ヨリウルツフ島ニ至リテ土着シテ傲然トシテ
去サルニ至ルカムサスカハクルムセノ因地ニシテ本戎蝦
夷ノ種族ナリ其地今魯西亜北海ノ要津ト
ナル嘆スヘキニアラスヤ 予ユフカ 諸島ノ
地理前輩ノ圖書大抵疎漏少ラズ天明中
宸上常矩嘗テウルツフ島ニ至リ魯西亜人
イシユニゲタニ邂逅シテ其大略ヲ得タリ
然レモイマタ其祥ナルヲ得ズ寛政十二年

守重 奉

命シテエトロフ島ヲ按察シ 古来日本島人往
シテ更ニナシ寛政十年守重初テコノ島ニ
渡リシハ前後日人渡海ノ四度目ナリ其
時守重宸上常矩ト共ニ此島ヲ見聞キ翌十
一年海路ヲ開キ十二年山田嘉亮ト廻船ニ
乗テクナシリ島ヨリ同島トリカマイエ着
帆シテイトエ會所ヲ立ツ是此島日本ノ
船ヲ通シ日本ノ家 魯西亜人建ル所ノ十字
ヲ倒シ 是ヨリ前ロシヤ人イシユエトロフ
法ヲ教ヘ夷人ノ中其佛ヲ受ケ其風俗ヲ變
スルモノアルニ至ルエトロフ島シヤルシヤム
ノ夷人ハウシビト云モハ髪モ魯西亜
ノ風トナリソノ佛ヲ信シ符咒ヲ受ルニ至

ル又夷人エ名ヲ与テ 同島 カムイワツカ
ホウナンセト改ル者アリ
ヲイニ於テ 木ヲ建テ標トス翌年エト口
フ島ヲ新開シ魯西亜人授ル所ノ佛ヲ棄シ
メ魯西亜人変スル所ノ風俗ヲ改テ本邦ノ
風俗トナス エト口フ島ハ既ニ我版圖ニハ
レハ此ニ載セズ然レモ寛政十
二年初テ日本船ヲ通シ澳場ヲ開キシハ東
都ノ御威光海外ニ溢ル所ニシテ北條
ノ世伊豆ノ八丈ヲ開キ以テ東夷一ニ
ノ良土トナルヘシ今ハエト口フモ東夷一ニ
ノハチ所マテ開ケタリ寛文十二年十二月
伊勢ノ船志摩ノ島羽ヨリ開帆シテ洋中猛
風ニ建テ漂流シ七ヶ月ヲ経テ又百餘日ニ

シテ一大国ニ至ル即エト口フ島ナリ陸ニ
上リテ夷人ノ部落エ行ントスレハ許サス
固ク請ヘハ引テ之ヲ御ク遂ニ行コト
ヲ不果ト新井君美此地ヲ論シテ北西黒利
加ク正徳中北アメリカト諸洲ナルヘシト
云リ東都ノ御徳化ニ依テ其地ヲ開キ其夷
人ヲ撫育スルノミナラス假然タル北門ノ
鎖鑰トナリシコト 時ニ予ユフカ夷人
イナヤンゲムシ来テ投化スイナヤンゲムシ
ハラシヨワ島ノ産ナリ居ルコト頃アリ
テ其子イモシケセツクルト父子共ニ本
邦ノ風ヲ仰テ遂ニ其俗ヲ変シテ歸化ス

即イナヤンケムシヲ改テ 市助ト名ク市助
曾テカムサスガ地方エ往来シ能針路ヲ
辨シ其島嶼畧泊ノ在ル所ト風順汐路ノ宜
キ所ヲ知ル於是 守室米ヲ紙上ニ裏テ島形
ヲ作ラシメ 詰問講究シエトロフノ酋長
ルリシヒ及イワレキイコルテキアツケシノ
酋長イコトイ及バツコ其他シバクチエフカ
諸島エ往来經過セル夷人ハウシビタカロク
イベツケウシ等ト再三討論シテ始テ

諸島形勢ノ詳ナルヲ得タリ即圖記ヲ作テ
當時進呈ス今其餘稿ヲ摘テ加ルニ蛮
人ノ説ヲ以テシ 邦弗加考ヲ作ル

ウルツプ島

此島ウルツプト云魚多キニ因テ
名ク松前人ハ此島ヲ獵虎島ト云
蝦夷人ノ所謂ラツコ島ハ別地ニ
シテ此島ノ東洋ニアリ下ニ見ユ
此島魯西亜人改名ケテラセナ
ツサトイト云南ニ港アリ夷人ハ
ワニナウト云魯西亜人ハシヤバ
リント云獵虎獵場南ハレバギン
北ハゴロシント云

此島今 本邦ト魯西亜ト分界ノ地トナレリ

エトロフ島カムイワツカライヨリウルツプ島
ヲカイワタラ返渡海凡十六七里寅ニ當ル順風ハ
未申ノ吉トス島ノ周廻凡七八十里モアルベシ
港泊ハ東邊ハトボ深凡六尋西邊ハワニナウニアリ
此地古来ヨリエトロフクナヅリ子モロアツケニ
四部ノ夷人獵虎漁場ニシテ魯西亞人モ古来
入會獵虎漢セシ所ナリ然レ氏土着ノ夷人ナク
夏秋ノ間集リ漢スルノミニシテ時トシテ越年
スルモノモアリ魯西亞人ハ古来ヨリ多ク此地

ニ越年ス三十年前魯西亞人ト蝦夷人ト此島ニ
於テ爭鬪アリソレヨリ後シモシリ前路ノ夷人
尽ク魯西亞ノ属トナル寛政七年魯西亞人一時
ニ六十人渡来漸クニ帰国シ其中ケ子トブシ其
外十七人居残りテ于今此島ニ在留シ女三人ア
リ生ム所ノ子既ニ七八歳ニ及ベリ魯西亞人物ハ東邊トボ
ニ居ル今ノ西邊ワニナウヘ移ルロシヤノ始末下ニ見ユ其産物ハ獵虎ヲ第
一トス夷人ハラウコヲ捉ニ弓ニテ射ヤスニテ
突ク魯西亞人ハサシ網ヲ張り鉄炮ニテ打ナリ

又ニノト云 此腸ウニ 貝多シ 獵虎ハ好テ此貝ヲ
食フ其他海豹麩鱒ウルツプ 近來名ヲ与ヘテ紅

此魚多キニ 兩鱒イルカ鯨ヲキナ 是ハウルクツブ
依テ名ツク エノ海中ニ居ル鯨ノ最大ナルモノナリ海中脊ヲ
出ストキハ丘山ノコトシト云其牙長五六寸 困

アハサ ノ類其木ハ梓ハニ五葉松イタヤシユイテ
類其山ハカビヲスブリ エトロフヨ ベワヌブリ

アダツヌブリ其周廻ハ西辺ハ ヲカイワタラ
ツシベ一日路 チプロトラシベク 一日路 ロツチシヨ
ツプ一日路 ウツ子ツフヨ 一日路合四日路東辺ハ

ヲカイワタラ ヨリトボ近 一日路 ワトボヨリアダ 一日路 ツアダ

トイヨリア 一日路合テ三日路ニシテ 尽ルナリ但ウ
ルツプ島 按檢ハ天明六年 官始テ吏人ヲ差シ

山口某最 寛政三年 官又吏ヲ差シ 最上常矩其
上常矩 後松前ヨリ一度人ヲ差シ享和元年 官又吏人

ヲ差シ 富山保高 俱ニ其地ニ於テ魯細亜人ニ遊
逅スト云

ヤンケナリ ホイ島 魯西亜人改名セ
ウルツプ島ヨリ渡海凡二十里順風ハ子ヲ吉ト

ス島ノ周廻一日路ト云港泊ナク巖石ノ上ニ寄
リ木ヲ渡シテ夷舟ヲ揚置ナリ木ハ一切ニナ
シ草ノミ生ス魚モ少シ唯エトピリカト云島ノ
エトハ鼻ヒリカハ美ノ夷言ニシテ此島ノ
シク島ニテ地ノ見エサルホトニ群飛シテ以
テ容易ニ捉得ヘキホトナリ夷人此島へ渡レハ
此島ノミヲ食料トシ其骨ヲ拾テ薪トス此島ニ
カムイワツカト云ヘル泉アリ岩砂ノ間ヨリ僅
一碗ホドツ、涌出ル色香トモ全クカラキ酒ノ如

シ久シク酌テオケバ甘クナル其側ニテ酒ノコ
ト噂スレバ忽ニ水涸テ又別ノ所へ涌出ル
ナリ酒ヲ釀セシ桶ヲ持行テモ泉出ズト云
寶ニ奇水ナリ魯西人此泉ヲ名テキスロト云
蛮書ニ云クリルノ諸島ニ酒泉ヲ出ス島アリ
蝦夷人來テ之ヲ汲テ還ルモノアレト海上ヲ
經ルニ至テ悉ク常ノ此酒泉ノ外ニ水一滴モナ
ク又カチコロト云鳥アリ大サ燕ノ如ク羽ハ白
黒ナリ之ヲ捉レバ口ヨリ油ヲ吐出ス此鳥蛮
トアリ又カモイチカプト云鳥ハ羽黒クシテゴメ

ノ如シ此島モ古来エトロフ夷人年ニ獵虎渙ト
シテ渡海スル所ナリ

レブンチリポイ鳥

レブントハ夷語ノ沖ト
云ナリ此島沖ノ方ニ
アルヲ以
テ名ツク

此島大サヤンゲニ同シ獵虎アリ

マカニル、島

魯西亜人改名
セウセ

此島大サチリポイニ同シ獵虎トバアリ木ナシ
夷人此島ニ至レハエトピリカ鳥ヲ捉テ食料ト
ナシ其骨ヲ焼テ薪トスエトピリカ鳥夥シクシ

テ内地ノ麋鱗ノ多カ如シ此島モ古来ヨリエト
ヒフ夷人獵虎渙場ナリ

ラツコ島

此島ハエトロフ島ウルツプ島ノ東洋ニ當レリ
晴天ニハ海上遙ニ見ユルナリ此地ハ本クル
ムセノ夷人ノ島ナリシニ近來魯西亜人ニ併吞
セラレソノ風俗モロシヤニ変セリ此島ニ夷人
多ク住ス魯西亜船ニハ毎度此島ノ夷人乗リ居
ルナリ魯西亜人ウルツプヨリ此島工渡海スル

ニハアイ北風ナリシモ風ニテウルツプ島ワニナウ
ヨリ出帆シテ真帆ニ舩ルナリ此島ノ夷人ハ皆
鼻エ穴ヲ穿テ環ヲ通ス言語モ通シカタシ魯西
亜人ヨリ文字ヲ教ヘ物ヲ書ナリ今モ其夷人一人
ウルツプ魯西亜人ノ所ニ来リ居ル名ヲキモヘ
イト云ラツコ地ヨリモ快晴ニハウルツプ見ユ
ルト云キモヘイウルツプニテ其本国ノ舩ヲ造
ル其制舩ヲトバノ皮ニテ張り袋ノ如クニ拵ヘ
中ニハ木ヲ骨ニ入レ夷人一人乗テ袋ノ口

ヲシメキリ水ノ入サルヤウニシ櫂ニテ左右ヘ
カキ走り陸上レハ骨ヲサリ皮ハタミテヲク
ナリ此舩ヲ夷人ハトンドチツプト云魯西亜人ハ
マイタレト云クナジリノ酋長ツキノイ嘗テ云
タルムセノ舩ヲ見シコトアリシニ小舩ヲ皮ニ
テ包ミ巾着ノ口ノ如ニシテ其口エ身ヲイレ皮
袋ノ口ヲシメキリ底ヘハ石ナトヲ入レ舩ヲ重
クスイカナル大浪ニテモ島ノ浮ブガ如ク舩モ
人モ波ノ中ヘタマリ入テ又浮コト自在ナリ

クルムセノ人此船ニノリ沖ニテ島ヲ逐シテ見
シガ両手ニハ弓矢ヲ持テ船ハ櫂ヲ勤シタリ思
フニ袋ノ中ニ絲ナドノ仕掛アリテ足ニテ櫂ヲ
勤カセシナラントアツケシ酋長イコトイ并イ
キヤンゲムシ云クルムセノ夷人ハトイキセコ
ツキヤカムイノ裔ナリ老夷ツタヘ云ムカシ夷地ニ
トイキセコツキヤカムイト云モノアリ其身甚
短シ皆穴居ス夷地闊ルニ從ヒ漸々ニ奥地エ
入り遂ニ其種族相率テ筏ニノリ東洋ノラツ

コ島エ往テ其部落ヲナセリト又カミシヤツケ
ニモクルムセノ種類アリ下ニ見ユ

シモシリ島 魯西亜人改名
セムナツサトイ

此島ウルツプヨリハ少シ小ナリレブンチリホイ
ヨリシモシリ島モヨロエ渡海ス 此ワタリノ汐
路ハエト口
フノ渡ヨリハ弱シト云 順風ハ酉ヲ吉トス順風
ハロシノツハ汐ハ強シ
上坪ナレハ早天ニチリホイヲ發シカラ尽シテ
船ヲ行リ黄昏ニシモシリエ着船スト云計ルニ
三十里内外モアルベシ此島ノ前路ミナ本邦ノ

属夷ナリシニ三十年前ヨリ魯西亜ニ服従シソレ
ヨリ二十年前以来夷人悉ク魯西亜ノ風俗ニ
変シテ男女トモ髪ヲ組ミ帽子ヲ被リ服引靴ヲ
着シ佛像ヲカケ鉄炮ヲモツ魯西亜役人モ時ニ
来ルナリ寛政十年ロシヤノ役人三人此地マテ
来リ数年シ翌年帰国ス本国ノ頭役替
リタルコト、金銀ノフキナリアリ
シコトヲ知ラスル為ニ来ルト云
ハ此ヨリ前路ヲ指テチユプカト云フノ夷人ヲ
チユプカアイスト云古来ハ内地ノ夷人モ常ニ此
辺エ往来シテ既ニアツケシノ酋長イコトイ先

祖ハシモシリノ夷長ニテウセシリ辺ニモ其親
族アル由ナレト云ク中絶セシニ近來ハ輕物
獵虎鷲羽ノ類ヲ少キニ依テイコトイ等ハ此辺
指テ輕物ト云家来ヲ遣テ越年サセ獵虎鷲羽
マテモウタレナリ
ヲ取ラスルナリ又シモシリ辺ノ夷人ハ古来ウ
ルツプニ於テ内地ヨリ渡海セル夷人ト交易シ
輕物ヲ持來テ夷人ノ室トスル行器盃碗鍋
鍔小刀古着獺狐皮酒烟草類ト交易セシニ近來ハ
エトロフ聞島ヲ聞テ同所マデモ来ルナリ此島

ノ夷人ハカムサスガ近往シモノアリ昔ハシモ
シリニ夷人多カリシガ今ハ甚少シラシヨワ并
ウセシリノ夷人モ冬ハ此地エ来テ越年シ輕
物ヲ投ナリ獵虎玄狐鷓鴣アリ鱒鮭ハ無シヲシ
リコマト云魚ノミ多シ夷人ハ草根ト臭島トヲ
食ス着モノハ鳥ノ羽犬ノ皮又キナト云草ヲ
編テ着モノトス 按ニ島貢ニ島夷奇服ト
云ハコノ類ナルベキカ 此島ヨリ
前路ハ夏中ニ雁常ニ居ルナリ島ノ東南ニ港泊
アリ其山ハアチチフシ イタンキヲイトトクシリ

ナド云ルアリシモシリヨリケトイ島エノ渡リハ
至テ近シ半日ニテ着 船スベシ風順上評
ナレバシモシリヨリウセシリ 近モ一日ニ至ル
ヘシ

ケトイ島 魯西亜人改名
ヘツナツサトイ

小島ナリシモシリ島渡海ハ丑ヲ順風トス此渡
リ汐路強シ夷人ハ住セズ ラシヨワヨリ冬中来
テ鷓鴣ヲ捉ナリ此地獵虎アリ

ウセシリ島 魯西亜人改名
セテイナツサトイ

ケトイヨリ末ノ風ニ渡ル小島ナリラシヨワ近
至テ近シラシヨワノ夷
家見ユルト云夷人住居ス西辺ニ港泊
アリ此島鷺甚多シトモアリ雁ハ夥シク手捉
ニナルヘシ夏中モ常ニ居ル雁ノ卵ヲ拾ヒ
入レ三匹モ四匹モ脊負テ歸ルホドナリ内地ノ夷
人云嘗テウルツプ島ニテウセシリノ夷人ノ妻
リシヲ見シニ雁ノ羽ヲ衣ニ拵エ海豹ノ皮ヲ縁
ニツケ筒袖縫タルミニ仕立着スル片ハ頭ヨリ
被リテ着シ皮ニテ作りシ股引ヲハキ膝ヲ掛

ル靴ヲハキ居タリ

ウシヨワ島

魯西亜人改名
テリリーナツサトイ

小島ナリウセシリヨリ午ノ風ニテ渡ル南ノ方
ニ港泊アリ此島夷人住居ス異類ナシ鳥ト草
根ヲ食トス小島ニヘカ氣候ハ至テ寒シ然レモ
ウルツプ辺ト違ヒ冬モ氷ハルナシ年ニヨリ氷
流レヨルコトアリ木ハ樺ハンノ木多シ白キ鷹
アリエトピリカハ口大サ鴨シノ
如ク黒シノコロムト云鳥
至テ多シ獵虎アリ夷人ハ皆穴居ス其制穴ヲ掘

テ上へ木ヲ梁ニ渡シ草ヲ蓋テ土ヲ掛ルナリ内
ヨリハ階子ヲカケテ出入ス エト口ノ島ニ魯西
人宛居ノ跡アリ
又イナヤンゲムシエト口 投化夷人市助 夷名
フニ居ル片モ宛居セリ
ヤンゲムシ後ニハ 此島ノ産ナリ其着スル
今ノ名ニアラタム
トコロノ夜ハエトピリカノ鳥ヲマルム
キニシテ其皮ヲ羽ヲ内ニシテイクツモ綴リ
附筒袖ニ拵へ襟ト袖口ト裾へアサラシノ皮ヲ
細ク附ケ胸ト裾エトピリカノ嘴ト犬ノ皮トヲ
文飾ニツケ魯西人ヨリ得タリトテ木綿ノ股

引ノユルキモノヲハキアザラシノ皮ニテ拵へ
タル靴ヲ穿テ頭ハ髪ヲ左右へ分テ髻ヨリ三
ツホニクミ下ケ其上へ帽子ヲ被ル帽子ハ裏
ヲ狐皮ニテ作り表ハ皮ナリ是モロシヤヨリ得シ
由ニテ鉄炮ヲ持テリ其鉄炮ハ長サ三尺餘火
ホ仕掛ナリ硝磺ハ魯西人ヨリ得ルト云此島ノ
此風俗ニナリタルモ二十年前ヨリノ一ト云
嘆スベキノ至ナリ 市助ノ子ヲイモシケセツク
ルト云十六七歳ナリ市助ハ
四十歳餘ナリチユプカ夷人ノ風俗ヲ変シタル
ハ何頃ニヤ下向ニ市助若年ノ頃其子ヨリ少

シ成長ノ時蝦夷人ト魯西亜人ト戦ヒシコトアリソレヨリ後悉クロシヤノ風俗ニナリタリト云其妻イナシシヤウシマツハシヤシコタシノ産ナリ風俗ハ夫ト異ナルトナシ頭ニ帽子ヲ被リ其上ヲ更紗ノ切ニテ包ミ後口ヘ下ケ鳥皮ノ衣ヲ着シ股引ヲハキ唯唇ノマハリト手ヘ墨ヘ入レシハ夷婦ノ如シ其子イモンケセツクルハ十六七歳許頗ル穎悟ナリ風俗亦同シ胸間ニ十字ノ鉄物ヲ掛ル是ヲケレシタト云魯西亜教師ヨリ與ル所ナリト云イチヤレゲムシ又佛像ヲ

所持ス船中難風ノ時ハ此像ヘ祈ル共ニ魯西亜人ヨリ受ル所ナリト云父子三人ウルツプ島へ来リ魯西亜人ノ所ニ居タリシニエトロフ開島ヲ聞テエトロフノ酋長ノ帰船ニ搭附シテ寛政十一年投化ナリ其夷ロシヤ人ノ所ニ從ヒ居シ故カ頗ル機智アリヨク方針ヲ用ルコトヲ知ル此島ヘハカムサスカヨリ魯西亜人年ニ来リ又ヨウロウシイシヤムト云人時々来ルナリヨウロウシイシヤムハ魯西亜人トハ風俗モ違ヒ蝦夷

ノ如ク鬚アリ著類モ別ニテ錦金入ノ羽織ノ
様ナル綺麗ナルモノヲ着スチユフカムイノ方
ヨリ魯西亜
国主ヲ云命セラレシ由ニテ夷人トモ銘々残
ラズヘ十文字ノ少サキ鍔物ヲ授ケ頭ヘ下ゲサ
ス之ヲケレシタト云是ハ夷人ノ守護ニテ此ケ
レシタヘ祈レハ漢獵モ多クナリ又口シヤ人ノ
中暴悪ノモノアレ此鉄物ヲ掛タレハ殺ス
ナシトテ與フルナリ又夫ナキ女ヘハヨウロウ
シイシヤム媒妁シテ夫ヲ持タセ女ノ帽子ヲ與フ

ルナリラシヨワ夷人ハ獵虎皮玄狐皮等ヲ持テ
カミシヤツケ近往テ魯西亜人ヘ貢ニ出スナリ
但クシユニコクニ近往テ同所ノ夷人其皮ヲ
受取テラシヨワ夷人一兩人乗組カムサスカ
ヘ往テクシユニコタンノ夷人ヨリ取次テ魯西
亜人ヘ出スナリチユプカノ夷人獵漢スルモノ
ハ魯西亜人ヨリ鉄炮玉藥ヲ得ルナリ鍋ハ
ウルツプニテ交易シテ得斧鑄ハ魯西亜人ヨリ得
ル所ナリ此地ノ夷人チコイチユイト云モノハ

魯西亜人ヨリトヤント云役名ヲツケチユプカ
ノ島々ヲ支配スアツケシヘ魯西亜人往シ時
通詞トナリテ往シモノナリ魯西亜ニトヤン
ト云役名アリ又ヤンヤラルト云役名アリトヤ
ンハ乙名ノ如クヤシヤラルハ小使ノ如シ近頃
ハトヤンニハチコイチエイヤシヤラルニハシレ
イタエリヤナト云夷人アリキ昔内地アツケシ
ノ夷人此地ニ来リ魯西亜人ト争闘シ半ハ殺サ
レ半ハ残リタルヲ魯西亜人ニ服従セバ殺スマ

シトテ悉ク魯西亜ニ従ヒキ又此地エ春ハシモ
シリ夷人来テ草根ヲ取貯テ糧トスラシヨ
ワヨリモトワ迄ハ早天ニ出船シテ昼ハ着ス汝
ハ強シ

モトワ島 魯西亜人改名
ヲリンナツサトイ

小島ニシテ尖山ノミナリラシヨウヨリ 渡海ハ
引汐ニハ午ノ風汐立ニハ未申ノ間ノ風ヲ吉ト
スモトウヨリラツクワキニ 近シ一日ニ往返
スヘシ

ラツクワキ島

魯西亜人改名
テイキツサトイ

小島ナリモトウヨリ午ノ頃風トス北ノ方ニ港
泊アリエハイト迄ハ遠シ早天ニ出帆シテ薄暮
ニ着船ス汝路強シ

エハイト島

一名コタヌンモシリト云夷人住居ス東北方
ニ港泊アリ又此島ノ東ニ千口モシリト云アリ
至テ小島ナリエハイトヨリシヤシコクニ
追迄一日ニ往返スヘシ

シヤシコタン島

南北ニ港泊アリエハイトヨリ午ノ風ニテ渡ル
夷人住居ス島中ニ湖アリタトニシタリエグル
ヒンナト云山アリ投化夷人イチヤシゲム
ノ妻ハ此島ノ産ナリ此島ノ西北ニエカルマト
云小島アリ

ハルヲマコタン島

魯西亜人改名
テエアトイ

小島ナリシヤシコクニヨリハ午ヲ頃風トス
西ノ方ニ港泊アリ此ヨリヌシヤシコタンエ一日

ニ往返スベシ此島ノ西エマサワチヨト云小島
アリ

又シヤシコタン島

魯西亜改名
フトロイ

一名ヲン子コクシ此島周廻船路二日路モアル
ヘシ夷人住居スチホヤニシクフシイルニ村ハルヲマコタン
ヨリ来ノ風ニテ渡ル南ト西ニ港泊アリ夷人住
居ス此ヨリポロモシリ迄至テ遠シ早天ニ出帆
黄昏ニ着岸ス汐路ハ中ホドヨリハ強カラズ此
島ノ西ニマカニルラミト云小島アリ

ポロモシリ島

魯西亜人改名
セリモイ

大島ナリウルツプ島ホドモアルベシ又シヤシ
コタンヨリ己午ノ風ニテ渡ル南ニ港泊アリ夷
人ハベワボアルモイニ村ニ住居ス山ハシヤシリ
モソチウチヤリシチキラフコトナド云ヘル山
アリチヤリシキノ麓ニ湖水アリ東ノ方ニ名山
アリ山ノ頂左右エ張り出テ鐘木ノ如シト云此
ヨリクシユニコタニ迄至テ近シ互ニ声ヲ通ス
ベキホドナリ此西北ニヲヤツコバケト云小島

アリヘツポノ南ニヲウテシルモイシヨ
アワイ
シヨト云小嶼アリ

クシユンコタン島

周廻船路二日モアルベシモヨロポト云港泊アリ
魯西亜船毎年此処ニ越年ス北ノ海濱ニ湖水
アリ其側ニ夷人住居ス此ヨリカムサスガノ南
ノ出崎レブンライシヤシ迄至テ近シ木ノ葉見
ユルホドナリ午ノ風ニテ渡ル此四ニベツポト
フルケト云ニ島
アリ共ニ夷人住居スト
云其地今知ベカラス

カムサスガ地方又カミシヤ
アツケト云

此地モト蝦夷クルムセノ部落ニシテ我日本ノ
属疆ナリシニ正徳五年魯西亜人併吞シテ今ハ彼
国北海ノ要路トナレリウルツプヨリシモシリ
ヲ歴此ニ至テ渡海凡二百五十餘里魯西亜人云
凡一千三十
エルヌタト今本邦ノ里法ヲ以テ之ヲ計レバニ
百八十六里餘ニ當ル然レモ蛮書ノ圖ニ依テ之
ヲ測ルニ九百五十里許ニシテ其往來

其渡海ハクシユンコタンヨリ午ノ風ニテ此地
ノ南ノ出崎レブンライシヤシエ渡リソレヨリ

地方ニ沿テカキ送り凡四五日ニシテベストワ
アビルスコイニ至ルベストワアビルスコイハ
魯西亜人ノ改メ名ル所ニシテ本トポニル、カ
ト云テカムサスガ入海ノ大港泊ナリ魯西亜人
此地ニ砦墨ヲ築キ土手ヲ築キ海口ニ所々大筒
石火矢ヲ備ヘ魯西亜役人一人外六十人ホド在
留ニ穴ヲ掘テ家トナス其穴居至テ深ク廣シ楮
子ニテ上下ス地上ヨリ之ヲ臨メバ其人小兒ノ
如ク見ユルホドナリ魯西亜船ハ毎年數度ヲホ

ツカ込ヨリ往来シニ艘ツ、此川ニテ越年ス
クルムセ夷人ハカムサスガ地ニ住居ス其地ヲ
惣テポニル、カト云今魯西亜人改メ名ツケテ
ベストワアビルスコイト云 守重 嘗テ東夷地
アツケシ并サルモンバツニ於テ其酋長等ノ語ヲ
聞ケリ云昔時義経朝臣夷人ハツキ、辨慶夷人ハ
イクルサル川ノ上ハイビラト云地ニ居テカジ
キトヲシノ嘴ヲ聚テ柵トナシ又下武川キロ
、井山中ニ往来セラレシニカニケシイラツプ

ト云へル金色ノ羽ノ龍鳥通りタルヲ見テ相共ニ
鳥ヲ逐テホンル、カノ国エ至リ玉フト此ホンル、
カノ国ノ一老夷ニ問ヘ氏知レザリシガキエ
アカ夷人イキヤンゲムシ投化ノ時カムサスガ
地方ノ一ヲ問タレバカムサスガノ海口モトハ
ホンル、カト云クルムセノ国ナリ今ハ魯西亞
人改メ名ケテベストフアビルヌコイト云ト始
テホンル、カノ国名ヲ發揮セリケルムセハ本ト
トイキセコツキアカムイト云へル往古蝦夷地

ニ居ケル一種ノ夷人ノ未裔ニシテ夷地開ケ夷
人聚ニ從テ奥地エ遁レラツコ島并カムサスガ
地方エ往テ部落ヲナセリ其人物ハ蝦夷人ニ異
ルコトナク髮眼トモニ黒シ今皆魯西亞ノ風俗
トナル其船ハ皮ヲ以テ包ム前ノラツコ島ニ見
エタリ此皮船ノコト蝦夷人ハトレドキツフト云
魯西亞人ハマイタレト云又魯西亞人ノ船木ニ
テ造リ傳馬船ノ如クナルハ蝦夷人ハロクンドト
云魯西亞人ハポロシヨンナイト云按ニ魯西亞

志并東砂葛記曰又一種ノ夷人アリクリレルス
ト云カムシカツトノ南ノ出崎及南ノ諸島ニ
住ム大抵カムシカツトノ人物ニ似タリト云ヘ
凡此地ノ人ハ惣身ニ毛ヲ生ズルヲ異ナリトス
男子ハ唇ノ正中ノミシヲ黥シ女ハ惣テ唇ニ黒キ
黥ヲナス男女共ニ身ニ銀環ヲカケ肘ヨリ腕マ
テノ間ニ種々ノ模様ヲ入墨スルナリ衣服居
所ハカムシカツトカニ同シ飲食ハ魚ト海獸ヲ
食トス妻ヲ多ク具ス其姦ヲ懲ス_ト甚嚴ナリ

祭ル所ノ神ヲインコウルト云是ヲ祭ルニ木ヲ
ウスクケヅリヨリカケテ幣ノ如シ蝦夷ノ所謂
獸ヲ殺シ皮ヲ取テ備ヘ祭ル肉ヲハ食用トス
人死スレバ冬ハ雪中ニ埋夏ハ土中ニ葬ルト見
ヘタリ

魯西亜ノカムサスガ諸島ヲ併吞蚕食セシメ
本邦ノ書記ニ考ルルナシ按ニ東砂葛記並
魯西亜志ニ云我明曆寛文ノ頃カ魯西亜
ノテヲトツト云人カムサスガニ漂着シテ
僅ニ巡檢シタルナリ魯西亜人イシユエ云
千六百四十二年コ
ヲフルト云モノ初テ見開ケリト按ニ
千六百四十二年ハ我慶安二年ナリ畧合ス即ソノ
國ノ周圍ヲ廻リ見タリソレヨリ後ハ誰
アリテ此地ノナリヲ魯西亜ニ通知セシム
ル者ナシ然ルニコサツカノ人アトラソフ

ト云者此地ノ要処ヲ見タルト多ク即元
禄十一年彼国千六百アタラクフ一軍ヲ帥
ヒテコトサツケンユカケリ及コレキヨリ
此地ニ至リ土人ヲ大半服セシメテ元禄
十三年彼国千七百年七月本國ニ帰ル其得タル
ノ皮三千二百枚ベイル即ラツコ七十七獺四灰
白色ノ狐皮十枚赤狐九十一ヲ帝ニ献ス
正徳五年彼国千七百年再軍勢ヲ理シテコス
モソコロフト云者ヲシテカムサスガ及近
傍ノ諸島迄モ伐從ヘリ其船ハヲホツ

即ヲホツカニテイルコノ小城ヨリ出帆シテ
ツカノ南濱ノ名ナリ
ペンシニクスノ港ニ入テカムサスガノ北
地ニ到ル又ヲユツコイ海ヨリカムサス
ガノ城下ニモ着船スルナリ享保十六
年彼国千七百三十年カムサスガノ人聚リ起テ魯
西亜ニ叛ク幾ホドモナクシテ静謐シテ
其後永ク服從スベキ盟約ヲナシ其賦
税ハ年毎二人ヲサベル皮ベトスル獺虎狐
一枚ツ、出貞享十二年蛮書セヲカ云一千
スナナリ

六百八十九年子ルトシキンヌコイノ内子ル
トシキト云処ニ城ヲ築キ支那ノ境ヲ堅
ム此所ニ關ヲスヘテ使幣ヲ交ユ韃而靺
ノ古国
ナ正徳一千七百十三年カムサスガヲ伏從ス
一千七百二十四年享保センスコイニ城ヲ築
テ清朝ノ境ヲ堅メ交易シテ大ニ利ヲ得タ
リ同年カビタシ某カムサスガ辺ノ島ニ往テ
是ヲ領ス蝦夷人名字ヲ請ニ依テサシクトフ
口ウレンスト云名ヲ與フ一千七百三十年

享保十
五年女帝アシナノ時及シ程ナク又從フ是
ヨリ後女帝ノ命令ニテ清朝ト日本トニ
通路シテ二國ノ強弱虚實ヲモ試ミ通船
交易ノ一モ謀ルベシト云又女主アシナノ
命ニテ官人ヘールヘルニア和蘭セイカビタ
シ沖船頭
ト云フスハレシベルグト共ニ南日本ノ地
方ニ臨ム赤蝦夷カムサスガノ南口ニヤ領
スル外前路三十四島アリ船ヲヨセ陸ニ
上ラシラ欲レ氏島人サヘテアゲス此

時クルノ人ヲ船中ニノスクルノ人曰クルトハ
カムサスカノ南ヨリノ地名ナリ此所ハ蝦
夷ニ近シト通辨分リソレヨリヨキ島ニ
到ル島人慈心アリテヨク存恤ス此島ヨリ
草木ノ果ヲ出ス其産ヲ携来テ與フ亦滯
雷キミスルニ更ニ怪マズ亦二人議テ曰シナイ支那則
清キナリ
ヤツパン十日相持通路茲ニアリト決ス
魯西亜本記ニ云我延享元年和蘭ウトルキトニ
テ刻スル所ノ書ナリ前禁意
翻記スル元文二丁巳年諸臣會議シテ曰今主ノ
所ナリ

廣徳ニ頼テ近隣悉ク帰服シテ從横宏達通ゼサ
ル所ナシ矣ニ宇内ノ大平ノ基ヲ開クト云ベシ
因テ尚クハアルカシゲルヨリ海船ヲ発シ北亞
黒利加ノ地方ヨリ日本及支那ニ至ルマテ遠ク
巡察シテ諸外国ノ方物ヲ交易シテ以テ万民ニ
シテ太平ノ化ヲ被ラシメシ之ヲ念フニ今此時
ニアタレリト乃主コレヲ可ナリトシテ遂ニ海船
ノ正司ベルヒク副司スバツレヘルグ此人和蘭
ノカビタ
出ルニ命シテ大船ヲ發セシム是ヨリ初テ都下ノ

大高國主ノ許容ヲ蒙テアルカシゲルヨリ高
船ヲ發シテ既ニ東方ニ到ル者アリ彼日本ノ近
辺ニ在テ其友人ナル船司ヘ贈タル告文アリ
即茲ニ附ス其文ニ曰

一日大韃靼

即北韃ノ東濱ヲ
コツコイナルヘシ

ヨリ出帆シテ

カムサツカノ南ニアルクリルト云島ニ到ル此
ニ魯西亜ノ成館アリ吾船中二人ヲ少クア
ルニ因テ彼館ニ請テ其土人若干ヲ借テソレ
ヨリ南ニ行ク海中小島多シ日本ニ屬シタルモア

ルヨシナリ船ヲ巡ラシテ之ヲ計リミルニ凡
三十四島アリ乃一島ニ近キテ碇ヲ下シ茲ニ
上ラントス島ノ人種ニノ器械ヲ以テ之ヲ妨
ク是ニ於テ吾クリルノ人ヲ以テ此處ニ來ルノ
仔細ヲ通ゼシム島人其證ヲ見シテ求ム乃
吾コレヲ明ニ示ス彼仍テ其事ヲ審ニシテ後
却テ初ノ率アルヲ謝シタリ吾更ニ行船ノ備ヲ
設テ茲ヲ去リ又別ノ一島ニ到ル其島人甚
好意アリテ吾從ヲ島ニ上ラシム此日大韃靼

ヲ發シテヨリ十六日ニ當レリ此島沃土ニシテ諸
木美ナルヲ他ニ異ナリ吾彼果實及其餘ノ産
物ヲモ多ク採テ船中ニ収メ置タリ

右ハ日記中ヨリ抜萃スル所ニシテ即吾目撃シ
タル実跡且其産物ヲモ持歸ヲ以テ窮理學ノ
一端ニ供セントス此餘交易ノ一事ハ之ヲ畧ス尚
此地ヨリ日本支那ニ到テマサニ吾魯西亜交
易ノ一ヲ圖ントスルノミ

此記事魯西亜ノ大商ノ輩須ク心ヲ用テ之ヲ讀
ヘシ即今船司スパツレペルク等日本支那へ通
路ノ海洋審ニシテ遠東外國ノ商船吾魯西亜ノ
モスクワ ペテルスホルリ アルカンゲルノ三都
會ニ聚リ来ントシテ欲ス先主既ニ數百万ノ財ヲ
散シテ四方ノ民悉ク聚リ乃魯西亜北地ノ東邊
ニ至ルマテ皆吾城壘ヲ建置スルニ及ベリ況ヤ
此通商ノ一ニ於テハ五トコロニ之ヲ得ベキカ
如シ然トイヘト但宜時ノ至ルヲ期スベシ
日本人口シヤエ漂流之事

宝曆三年癸酉

三云延享元年ト然レモ天明五年

飛彈屋某ノ書ニ三十三年前トア

レハ宝曆三年ヲ是トスベキカ又一説ニ宝曆

十二年ノ頃口シヤエ漂流人アリテ今ニ六人

存命シ子アリ其国ヲ問ハハ

松前ト云ト疑クハ傳聞ノ誤ナシ

奥州南部領佐井村

竹内徳兵衛外十六人千二百石積ノ新艘エ乗組

同年十一月十四日佐井ノ湊開帆シテ難風ニ逢

テ北方ニ漂流シテ赤人ノ國ニ漂着ス徳兵衛ガ

親族勝右衛門奥戸村伊勢屋安兵衛親類利八

大間村長松宮古湊伊兵衛長助等五人今ニ存生シ

テ赤人ノ國ノ土人トナリ各所々ニ住居ス利八

カムサスガ土人日本ノ通詞ビヨドロト云モノ、

妹聳ドナリ勝右衛門ハイルツツコイニ住居

シテ赤人ノ國主ヨリ銀錢二百文ニカ、ヘラレテ

イルツツコイノ役人トナリシニ男子ヲ生メリ此

子諸人ニ勝リケレハ國主ヨリベイタラレラ

ンセイ子ヤト云名ヲ賜フ天明三年ニ至リ十七

歳ニナリシガ國主ヨリ大船ヲ造ラシメ水主七

十四人ヲ添テ勝右衛門カ子ヲ船師トシテゴロ

ヲタラハンエリスカイト云港ヲ開帆シテ南方

ニ針路ヲ求テ舩出セリ蝦夷ノ地方ニテモムキ
シガカラフトニ着シテ土人ノタメニ殺サレ舩
ハ流レテウルツプ島ノアダツトイニ漂着シケ
リ時ニエトロフ島ノ酋長ハツパアイノト云モノ
之ヲ見テ舩ニノリテミルニ無疵ノ死骸一ツ
アリテ外ニ舩頭水主モ見エズ金銀錢カクシ置
其舩ヲハ焼棄ケリ然ルニ毎年獵虎溪ニ渡来スル
赤人ノ舩遠沖ヨリ幽ニ見ヘテ段々間近ク頓
テ此島エ着岸トミヘケレハ時ニハツパアイノ

思フハ赤人ノ大舩焼棄テ舩中ノ積荷物取カクシ
タルコトモシ露顯ニ於テハ舩中ノ人モ我等殺
シタルヤト疑モカ、ルベキヤトテ日和ノ善惡ヲ
モ見定メズ周章テ蝦夷舩九艘ニ乗組百人餘ニ
テウルツプ島ヨリ出舩シテエトロフ島ニ遁歸
ラント汐ノ急流ヲモ厭ハズ大難海ヲ渡リシガ
折節暴風強ク遂ニ沖中ニテ浪底ニ覆没シテ溺
死シタリケル赤人ドモハウルツプ島ニ着舩シ
テ其辺ニ遁残りタル蝦夷人ニ詰問スレバ

ハツハアイノト云モノ當島へ漂流ノ船中ニ死骸ツ
アリテ船主モナケレバ荷物ヲ取カクシ遁去タ
ル次第具ニ告ケレバ赤人は是ヲ聞テ大ニ怒リ此
島ハ赤人蝦夷兩國入合漢業セシ所ナレハ急難
ハ互ニ救フベキニ不法ノ仕方ナリトテ鬱憤ヲ含
ミケル蝦夷双紙ニ載ス

天明二寅年伊勢国白子村神昌丸船主彦兵衛船
頭幸太夫外十六人乗組同年十二月島羽出帆駿
河沖ニテ難風ニアヒ漂流シ翌卯年七月アミシ

ツカ島エ漂着同所ニ四年滞留セシニ赤人此島
エ獵虎漢ニ来リシ船アリ其船ニ便乞シテ同七
未年八月カムサスガエ着船同八申年千キリヲ
経テヲホツカエ入津十一月ヤコヲツカエ着寛
政元酉年二月イルコヲツカエ着同三亥年二月
ヲロシヤノ城下子テルポルエ着女帝エ渴シ同
十一月城下出立同子年九月十二日ヲホツカ出
船十月三日東蝦夷地ハラサンエ帰着同五日魯
西亜船ニノリテ子モ口エ帰国ス
子年口シヤ人
来朝ノ始未ハ

世ノ人皆知ル所ニ
故ニコトニ畧ス

寛政五年癸丑奥州仙臺領石ノ巻若宮丸船頭
清兵衛外十五人同年十二月難風ニアリ翌年寅五月
アツカト云島エ漂着卯年六月口シヤノ船ニテ
ヲコウツカエ着ス文化元子年九月六日五人口
シヤ船ニ乗テ長崎ニ帰国ス

魯西亜始末

魯西亜人ノヲ蝦夷人フーレシヤムト云夷言ニフーレハ
赤キヲナリシヤムハ人ノヲナリ故ニ松前人之

ヲ称シテ赤人ト云又赤蝦夷ト云是ハ往歲魯西
亜人初テ蝦夷地エ渡来セシ時ミナ猩々緋ノ服
ヲ着セリ因テ夷人_ノヲフーレシイシヤムト云
赤人ノ蝦夷地ニ来ルヲ記載ナケレバ其初ハ知
レズ東蝦夷地ニ古来ハアツケシ道廻船往來シ
夷人ト交易シソレヨリ前路ハ通船ナカリ
シニ四五十年前ヨリ子モ口ヲ開キ三四十
年前ヨリクナシリ島ヲ開ク故ニ奥地ニ至リテハ
邦ノ人往來ナク又夷人モ往來今蝦夷ノ語ル所ト
稀ナルハ委シキヲハ知レカタシ
松前スノ傳ル所ヲ採録シテ其事由ヲ見ル
ノ一助トス一説ニ寛永年間赤人初テアツケシエ
三十一人許渡来スト云疑フベシ

三四十年前ウルツア島エ於テエトロフ島ノ蝦夷人及シモシリヨリ前路島ニノ夷人一同カラ合セ赤人ト争鬪セシマアリ其時ハ此方蝦夷トモ討マケタリ翌年又争鬪アリケレバ赤人ドモ討マケタリ其後エトロフ島シモシリ前路諸島ノ蝦夷各其在所ノ島々エ帰ケレバ赤人俄ニ襲来テ尽クシモシリ諸島ニ討勝タリワレヨリ以来シモシリ前路ノ蝦夷残ラズ赤人ノウタレ家来トナリトナル然レモウタレトナリシマデニテ其風俗ハ

蝦夷ナリシガ近比ハ全ク赤人同様ノ風俗トナレリ

二十年以来赤人ヨリシモシリ前路ノ蝦夷人エ教テ髪ヲ結ハシメ鉄炮玉藥ヲ與ヘ着類マデモ尽ク赤人ノ風俗トナレリ右ニケ條ハエトロフクナシリノ乙名ノ

話ス

安永初年獵虎島エ赤人六十人餘渡来三ヶ所エ小屋ヲカケ其小屋ハ長十四五間高五六尺ノ土子ヲ築キ上ニ桁ヲ揚ケ中ニ柱四五本立テ棟

木ヲ渡シ草ヲ以テフキ壁ヲスリ砂ヲカケ小屋
ノ内エ床ヲ作り出入ノ口ハ三ヶ所ヲ土午四尺ホ
ドニ切開キクルリ仕掛ニ板ヲ建テ窓ハ二三
ヶ所ニアケ住居スソレヨリ日々ニ海上エ差網
ヲシテ朝夕小船ヲ以テカケ試ミ細ニ入ル獵虎
ハシメ殺シテ又網ヲハルナリ赤人云ウルツプハ
チユプカムイ 魯西亜国ノ島ナレバ捉ル所ノ
獵虎ハ残ラズチユプカタトノエ出スベシ他エ島
ベカラストエトロフ乙名ハツバアイヌ云此地

ハ古来カムイトノ、島ナレハ獵虎ハニシハ役
ナニ出スナリ汝等此比初テ渡来氣隨ナリトテ
争鬪シ双方午負死人少カラズ其後イカナル故
カ和談シテ安永七年赤人初テノツカマツプエ
渡来セシ時ハクナシリ島ノ酋長ツキノイ案内
セリ赤人云国ノ名ヲヲロシイヤト云城下ノ名ヲ
ムスクワト云濱ノ名ヲカムサスガト云湊ノ名
ヲヲホツコイト云

安永二三年ノ頃 一説ニ安永九年ト云 ウルツプ島ニテ赤

人ト争鬪セシ起リハ夷人ノ宝トスル太刀ノ類
古木ノ穴エカクシ置タルニ赤人ソノ木ヲ伐取リ太
刀等ヲ見出シ奪ヒ取レリ夷人ハ償ヲ取ルベキ
トテイヒツノリ双方争論ニ及ヒ兩三年モ取合双
方横死ノ者モアリケリ

安永七戌年六月九日東蝦夷地ノツカマツプエ
子モロ 蝦夷船ノ如キ異船二艘エ異國人乗組外
ノ内 水先トシテエト口フ島ノ夷人一艘薄暮ニ渡来
シ湊近所ニ至リ鐵炮ヲホツ蝦夷人トモ驚キ騷

ケリ程ナクエト口フノ夷人上陸シテ全ク争
鬪ノトニハ非ス赤人トモ日本人ト對面シタキ
トテ渡来セル由云ツレヨリ赤人トモ上陸シ濱
邊ニ仮小屋ヲカケ借赤人ノ通詞セルシモヨリ
島ノ夷人ヲ以テ云ケルハ蝦夷地ニ日本人詰合
ヨシ兼テ兼リ及ニヨリテ對面ノト願フ所ナリト
頃アツテ夜ニ及フ松前吏人<sup>上乗役新井田某目
付ニ藤某通詞林右</sup>
門異國人ニ對面夜分ハ如何ニハ盟朝逢ベキナ
リト答フ赤人再三願ヒケルハ日本人此所ニ詰

合フヨシ兼及ニヨリテ遠海渡来不案内ナル當
所ニ来リシウヘハ夜中ナリトモ對面ナケレバ
安心セズ是非對面ノコト願フ由強テ訴ルニ依
テ運上屋ニ呼ヨセ對面セリ即仮小屋ニ歸リ其
夜鐵炮用意セル赤人四五人其傍ニ夜番セル故
吏人ヨリ蝦夷人ニ理不尽ナルヲセザルヤウニ
令シテ赤人ニハ安堵シテ休息スベシト云送
リケレバ番人ハ引取り翌十日シモシリ通詞
夷人ヲ以テ赤人云ケルハ日本ノ產物ト交易ヲ

望少仕入ノ荷物手奪物持来レリ交易ノヲ殊
ニ願フ所ナリト吏人云異國人交易ノヲハ松前
ノ指揮ナクテハナラザルヲナリ今年ハ歸国ス
ベシ明年夏ニ至リエトロフ島ニテ有無ノ返答
スベシトテ早々歸帆セルヤウニ云ヤリケレバ
十二日ノツカマツプ出帆歸島セリ其時赤人ヨ
リ松前領主ニ音物書簡ヲ送レリ其書簡音物
ハ上乘役松前^エ持歸レリ翌八年夏赤人^エ去年ノ返
答スベシトテ松前ヨリ異國人應對ノ吏人ヲ出

シケルニ順風ナクシテ延着セリ赤人ハエト
口フ島ニテ待居タリケルガ黙止カ子クナシリ
島マデ渡来ノ処何タル沙汰モナキニヨリテ又
ノワカマツプ迄渡来待居ケルガ一切ニ沙汰ナカ
リケレバ待カ子ケルニヤ漸々ニ進来リアツケシ
ノ内子クシコイ迄渡来セリ松前吏人ハ赤人應
對ノ為
ニ選スル所淺利某松井某ニ藤某
柴田某古屋某通詞三右衛門林右衛門
前出帆南部佐井湊ニ入津順風ナクシテ八月四
日迄滞船同七月初テアツケシ着船ノ処ニ赤人

トモ待カ子テ漸々ニ押詰メ来ル由聞之ナクシコ
イ迄出張リ赤人エ對面セシニ日本産物ト交易
ヲ願フ由ナリ即吏人ヨリ赤人エ諭シケルハ異
国交易ノ所ハ長崎一所ニ限り其他ハ国法制禁
ナルニヨツテ何等ノ願アルニ叶フヘカラズ以
来渡海無用ナリト云聞カセ且船中用意飯料ト
シテ米十五俵酒煙草烟管等サシ遣ス赤人ヨリ
返礼トシテ上乗二人エ砂糖三包目付二人エ二
包相贈リ赤人ハ直ニ帰船セリ
以上三條ハ天明
五年蝦夷地請願

人飛驒屋ナル者ノ書付ト松前通詞
林右衛門ノ書付トテ併セノス

安永八亥年渡来赤人ノ名シバクミ

者ナリ髪ハ白苧繭ノ煤ケタルカ如ク眉毛ハ白

シ上着ハ花色羅紗股引白天鵝絨笠黒ビロウド

縁ハ獵虎皮ナリ皮ノ靴ヲハクエバンテ

赤人ハ髪ミナ赤白ナリ日本エ

モノヤクツコイノ役人ナリトイフ上着ハカキ

色ノラシヤ下着ハ花色ラシヤ股引カキ色ラシ

ヤ笠ハ黒ビロウド縁ハ金繭太カキニンコンテ

ヲ帯ス銀ノ鞆皮ノ柄鉦ナシ

カムナスガノ人ナリ上着鼠色ラシヤリエントシ

下着同シ股引フヂ色木綿

ムシクワノ人ナリ上着花色木綿下着フヂ色木

綿股引メリヤスカブリモノ子ツミイロ

シリイタリ是ハ蝦夷人ニシテ赤人ノ通詞ヲス髪黒

由云此一條ハ赤夷

天明三卯年ウルツプ島アタツトイエ赤人ノ大

船一艘漂着ス内ニ赤人ノ死骸一ツ庇ヲ被テ

アリ外ニ金銀錢羅紗狸々緋類夥シ時ニエトロフ

ノ夷人ウルツプニ居ケルガ此船ヲ見テ船中ノ

物ヲ尽ク奪ヒ取り船エハ火ヲカケテ焼捨タリ

下着モヘギ色ノラシヤ
耳ガ子ハナシ
交易ハ羅紗狸々緋

棧留奥島更紗皮類藥種類牛馬鳥獸類砂
糖漬類何ニテモ好次第交易トシテ持渡ルベキ

由云此一條ハ赤夷
聞書ニ出ス

天明三卯年ウルツプ島アタツトイエ赤人ノ大

船一艘漂着ス内ニ赤人ノ死骸一ツ庇ヲ被テ

アリ外ニ金銀錢羅紗狸々緋類夥シ時ニエトロフ

ノ夷人ウルツプニ居ケルガ此船ヲ見テ船中ノ

物ヲ尽ク奪ヒ取り船エハ火ヲカケテ焼捨タリ

松前及南部辺ニ赤人ノ産物種々出シハ此時ノ
トナリ其跡エ赤人渡来シテ此トヲキ、大ニ怒ケリ
此事詳ニ漂流人ノ條ニ見ユ 此一條ハ最上
常矩ノ記ヲス
天明五己年赤人三人エトロフ島エ渡来シテ
シヤルシヤムト云所エセケ年滞留シ寛政三亥年本國
ヨリ呼ニ来リ帰国スト云其長ハ名ヲシメラシ
トロヘイイシユヅヨブイシユヨト云 イルコ
ツカノ人ノ由其次ハイワシエレコーイシユサ
スノスコイト云 ラホツカノ人ノ由僕一人アリ

名ヲニケタト云 イシユユ云 ウルツプエ赤人多
勢渡来セシニ船中ニテイシユユハ外赤人ヲ予
荒クセシユヘ恨ヲ生シ同船ナリガタク依テ
エトロフ島ニ逗留ノ由ヲイフ其後クナシリ追渡
来シ其時常矩應對セシニ松前ヨリ長崎ニ至テ
ハ紅毛船エ便乞シテ帰国ヲ乞ト云ヘリ シヤル
シヤムノ家ノ前エ宗門ノ十字架ヲ立テ夷人エ
宗門ノ符咒等ヲモ教ヘタリ又其國ノ傳馬ノ證
文ノ由ニテ大節ニ所持セリ方五六寸ノ紙エ横文

字ヲ書シ下ニ細キ絲ヲ輪ニシテ結ビ目ヲ作り
此結目一ツアルトニツアルトニテ傳馬ノ差別
アルト云其絲ノ上へ彼国ノ蠟ノ判ヲ押シタリ
此證文ヲ持テバイスハニヤイタリヤ其外ノ
諸蛮国ニ往テモ往來滞ルヲナシト云ヘリ後ニ
夷人ノ言ヲ聞ニ赤人トモ云ケルハイニ事數
年エトロフニ滞留遠キ島々マテ見究メタリト
テ国主ヨリ賞セラレシト云
エトロフ夷人ハウシビト云モノ赤人ノ風ヲ學

ヒ髮ヲモ長クシ蝦夷人ハ髮ヲキルナリ赤人トハ殊ニ親シ
カリシヨシ寛政戊申ノ年守重エトロフニ至リ
シ時シヤルシヤムニテハウシビヲ呼出し赤人ヨリ
何事ヲ學ヒタリヤト問ケルニ赤人ヨリ佛像
ヲ与へ符咒ヲ教へ云ケルハ此佛像符咒ヲ尊
信スレバ漢業モ盛ニ難破船ノ患ナク其外願フト
コロ叶ハズト云フナシト其符咒ハ何ト云ヤト
問ヒシニハウシビ立テ赤人ノ如ク三ツ指ヲ聚
メ額ト胸ト両脇ヲ指シテヲホツボミボミロイト

云フ唱エ言ヲ三度トナヘテ詳シタリト云フカ夷人
イチヤンゲムシ亦同シ

天明六年四月赤人ノ船東海ヨリ乗り廻リ松
前ト南部津輕ノ瀬戸ヲ西海ニ舩セ出テ松前ヨ
リ三里ホド西北エラフ村メ沖ヨリシマコマキ
村ノ沖ニカル時ニ蝦夷人漁船ニテ出ケレバ子招
シテフラスコエ酒ヲ入テ与ヘタリ

寛政八辰年八月東蝦夷地アブタエイギリスノ
蛮船一艘蛮人百十人乗ニテ渡来ス武官ノ内ニ

魯西亞人一人アリテ松前人エ通辨セリ

寛政七八年ノ頃赤人ノ大船一艘六十人内女三
人クルムセノ蝦夷一人乗組カムサスガヨリ出
船ノ由ニテ同年九月ウルツプ島エ渡来ワニナウ
ト云所エ上陸シテ家倉ヲ作り在住ス初辰年
マツコタンニ住セシガ三人死シ己年三月二十
八人帰国午年五月十四人帰国シ残十七人内女
三人ハ^{此人數ハ死失帰国モ}今ニ居残り蝦夷人エ
年々帰国スベシト欺テ更ニ去ラズ其赤人ノ

頭タルモノニ人アリマイタラシト云モノハ午
年帰国ス今ハケ子トブシト云モノ残りテ在留
シ赤人ノ子モ出生シテ既ニ五六歳ニ及ベルア
リ其率ユル所ノ夷人モ亦赤人ノ風俗ニテ髪ヲ
結ヒ髷ヲ剃ルシモシリ島ノ夷人シレイタト云
モノモ来リテ赤人ノ通詞ヲナス鐵炮玉藥ハ夥
シク貯ヘシキ十年餘常ニ用ユレ凡今尚貯アリ
赤人ノ内鍛治スルモノモアリ犬ノ如ニテ毛
白ク尾長キ獸ヲ持渡リ畜ヒ置タリ其小船ハニ

品アリハ皮ニテハリ木ニテ骨ヲ入レ用ヒザル時
ハ木ヲ弛シ皮ヲ置ム大サハ圖合舟ヨリハ小也
蝦夷ハトシドナツプト云赤人ハマイタレト云
一ハ木ニテ造ル蝦夷ハロクシドト云赤人ハポロ
シヨシナイト云赤人来リシ初アツケシノ乙名
イコトイモ此島ニ越年シ赤人トハ殊ニ親シク
イコトイヨリモ赤人ノ国王エ獵虎皮ヲ献シタ
リ前々ハ赤人ドモ蝦夷人エ對シ格別親シメル
トモナク又毎度澳場ヲ争ヒシトモアリケルニ

辰年エトコフ蝦夷トモ赤人在留後初テ渡海セ
ル時ニハ赤人格別ニ夷人ヲ親ニ厚ク丁寧ヲ
尽シケリエトコフ夷人例年ノ如クウルツフ渡海
セシニ赤人ノ家アリシユヘ不審ニ思ヒ沖合ニ
跪躄セリ然ルニ赤人小船ニテ出迎ヒ酒烟艸等
飲セ悉ク馳走セリソレヨリ日々飲食砂糖ナド
贈リウタレニ至ルマテモ酒食ヲ以テ饗待セリ
其上獵漁ノコトモ前々ハ常ニ爭論アリケルガ此
度ハ然ラズ蝦夷人ドモ獵虎ノ持往テ賣コト

云ヘバ日本エ出スベキ産物ナレバ買フベカラ
ズ輕物ハ日本エ出スベキナド云日々引綱ヲ以
テ漁事シテ其魚ハ半ハ蝦夷人エ分テ与フ赤人
云向後年々日本ノ産物持来ラバ彼国ヨリモ品
品持越シ交易スベシ蝦夷地ニハ日本人モ来リ
居ルユヘ日本ノ産物多カルベシ何品ニテモ持来
ルベシ其内皮類尤望ム所ナリ又米ハ格別ニ
珍重スト云夷人ヲ見ルゴトニ日本ノ米ハ所持セ
ズヤト再三問フコトナリ米スラ渡スベクハ反

物類何ニテモ交易スベシト云其赤人ノ名
 ワシレイコシニラプスエズドシケレトブセ長タ
ル者
 イリコウツカイイユフテベイワブセン四十
歳餘イロ
ノ産五十歳餘
 シゼリヤンノフ三十
歳餘マクセムカアセンステパ
 シドマセフ四十
歳餘ミハイランクジ子エグフミテ
 レイセレエヘレエニコフニハイランレイ子コ
 アダニハホトフ五十
歳餘ステバンガザンツラウフ
三十
歳餘ラニシヤアレキセエワ二十
三歳イワンドロ
 ヒム三十
歳餘女二人ゼナンエラシノラリイナ三十
七
八歳

ラニシヤアレキセエワ二十
三歳女子三人ナタリ
 ヤ六歳ヘドシヤン四歳ラリイナ二歳右ノ赤人
 今ニウルツプ島ニ在留シテ去ラズ

ハンベンゴロウ

明和八卯年阿波ノ海濱ニ異国船漂着シ其後琉
 球國大島エ其船着岸シテ同所ヨリ長崎在留紅
 毛加丹工書簡ヲ送ル盖阿波ノ太守薪水ヲ
 賜フノ恩義ヲ謝シ且松前蝦夷地ヨリカムサスカ
 迄ノ要害油断スベカラザルヲ告ケ越セシ

ナリ其加比丹ニ送リシ書簡ハ其時長崎ニ於テ通
詞シテ訳サシム其文下ニ載タリハシベニコロウノ
魯西亜ニテ名シアウスト云元来ポリシヤ
国ノ士ナリシガ故アリテススクワエ因ハレタリ
穎悟ニシテ卓量アリシ豪傑ナリ非理ナル
アリテヲホツカトカムサスガトノ間ノセレホ
レツコイセカーフカト云所ニ左遷セラレテ居
タリシ時イツコイワフバセローフト云二人ノ
官士ロシヤエノ貢物ヲ積シ大船ニ乗テ此所ニ

来ルアウス曰我願クハ蝦夷及日本ノ東海ヲ廻
リ南洋ニ出テ本国ニ帰ラント志スニ今時ヲ得
タリトテ狼藉ニ其船ヲ奪テ開帆セントスイツ
コイロフ大ニ怒ルバセローフト曰日本ノ東海ヲ
廻ルヲ幸望ム一所ナリトテ共ニ船ヲ出シ南方ニ
針路ヲ求メ開帆セシガシモシリ島ハヨキ湊ア
レハ此ニ船ヲツナキ薪水ヲトリタリイツコイロフ
ハ船ヲ出スヲ昔セス是ニ於テ大ニ打擲シテ砂
濱ヲ弃置テ出帆スイツコイロフ即蝦夷人ト

共ニシモシリヨリカムサスカニ帰ル帝其心ノ
堅キヲ賞スアウスハ日本ノ東海ヲ廻リテ針
路深淺ヲ測リ四国ノ阿波エ船繋シテ薪水ヲ取
ル時ニ阿波ノ国主厚ク撫卹アリ夫ヨリ阿波ヲ
出帆シテ琉球国大島エ至リ同所ヨリ長崎ノ紅
毛加比丹エ書簡ヲ送テ阿波ノ国主ノ恩義ヲ
謝シ且日本ノ油断スマジキ由ヲ告テ越セリ夫
ヨリ天竺ノ南洋ヲ廻リフランス国ノバテリ
ト云所ニ着船シテアウスハ又其地ニ居ルト云

バセローフハ船師ヲ率テ本国ニ歸リ日弁及蝦夷
ノ地理南洋ノ方程ヲ言上ス帝其大量ニシテ
智謀アルヲ賞シテ麻衣美ヲ賜フト云其横文字セ
通ヨリ即紅毛通詞ヲシテ加比丹エ古加比丹ダ
ニイルアル
メナウルト新加比丹ア
レントウアルレムヘイト 間ハシメテ訳セシム
一説ニアウス後ニトイテ国ヨリ加比丹エ書簡
ヲ送ル加比丹長崎エ齎シ来テ出ストモ云一説
ニ安永ハ亥年長崎渡来ノ紅毛人トイテ国ヨリ
其書簡ヲ持来テ国主ニ送ル即江城ニ上達シ長
崎ノ通詞ニテ訳セシムト此ニ説思クハ非ナラズ
其七通ノ内ニ通ヲ左ニ載ス

ウシマノ人工

下ヶ札 ウシマノ人工と申すは琉球と内大島
の人と申すとおぼし

莫由に八月上旬ウシマノ上陸仕居り及飢渴の故
仕方を悉くお救ひ而多し人米の薪葉子おとす
厚仕合も何れ迄も存在を漂忌より若くは被送
ひ所可く之れを以て西より人情厚きより恩儀御謝
す存候

お流しをうり何なるを

長崎より阿蘇院西より我れ者頭級人
数日強風遭海上を凌ぎ其内再一日中此

漂流し一急切に流るるに救をせし然
とも面命を承りて甚く不幸なるに茲に一寸
伝を以て我れ今年カリヨウト船二艘フレガット
一艘かじりかつかルス西に命を請要害
ため日本西に命を承りて又一所に集りて
下ヶ札 ガリヨウトトフレガットトハ船名
カスミトヤムスコウビヤ
一名カミカムシカツテカトヤス
は船名カミカムシカツテカトヤス
必定考らるる未歳に西りてハ松島の地を不
し急ぐるをいふは尋く地は赤道

水四十一度二十八分、測量を以り也 赤道以北四十一度三十分

ハ分例を以りて中ノ段ハ数を量 相違を以りて中ノ段ハ数を量

クルリイストと中ノ段ハ クルリイストと中ノ段ハ

世を以りて中ノ段ハ 世を以りて中ノ段ハ

レニスト 對 一 西段ハ人ノ子ハ

告知也 告知也 告知也 告知也

ルス也 族ホ 族ホ 族ホ

友ニ也 比ハ 比ハ 比ハ

私ニ也 邦ハ 邦ハ 邦ハ

謹ニ告報ル

千七百七十一年ユークイ廿日

守重云 明和八年ニ當ル

ウシマニ ありて ありて ありて

一 徳島ニ 徳島ニ 徳島ニ

カムサスガ 地方

一 徳島ニ 徳島ニ 徳島ニ

カムサスガ 地方

東砂葛記及魯西亞志云カムサスガハ魯西亞ノ
屬国ニシテ彼国イルクワカト云大地ニ屬セル
七国ノ一ナリ 彼国東方シベリイノ東辺ニイル
クツカト云地アリ即イルゴウツカ
リ其地ニ大河アリカムシカト云其源北
極五十四度ノ辺ヨリ流レテ五十六度半ニテ大
東洋ニ注ク故ニ其地ニ名ケタルナリ日本ニテ
古昔奥蝦夷ト称セシ地ナリ此地イルクツカノ
東辺ノ地ヨリ長ク指出テ南西北長サ二百四十
里ソノ南ノ崎ヲクリルスカヤロバチカト名ク

即クルム
セナリ 五十一度半ニ當ル此地ハ山甚多シ然
モ石山ニテ不毛ノ地ナリ中ニ三ツノ火山アリ
昔ヨリ常ニ烟ヲ吐キ又時々焰ヲ出シ灰ヲ降ス
一ツハアワシンスカヤ一ツハチユルハシンスカヤ一ツハ
カムシカトトカト云此山第一ノ高山ナリ毎年
二三度ツ、灰ヲ噴出ス元文二年千七百大ニ焼出
テ石及ヒ種々ノ硝子ノ如キモノヲ吹出セシ
トアリ又温泉極テ多シソノ水常ニ夏ノ熱サノ
如キモアリ又常ニ沸騰シテ鳴リ響クアリ其傍

ニテ人声ヲアゲテ呼レバコキ烟ヲ起シテ三四
丈モ隔リタル所ハ見ヘザルヤウニ成モアリ其
水面ニ黒キ沸沫アリテ予ナドニツケバ洗テ
モ落カタシ 是地油ナリ本邦戦後ノ地震海嘯ハ
真水油ノ類ナルベシ 度々アリ火山ノアタリハ別テツヨシ氣候ハ一
年ノ内八月ハ冬ノ如シ南ノ方ハ常ニ雪ノ深サ
一丈餘北ノ方ハ却テ雪ナシ夏ノ氣候ハ甚短シ
故ニ五穀ヲ生ゼズ組子トテホルトカムシカ
ツトノ烟ヲモ作ルナリ雷ハ甚稀ナリ

国人ヲカムサスガデルスト云是數百年前蒙古
国ヨリ其人衆ヲ置タリ其人アムルト云川 支那
ニテ
黒竜江ト呼 モノナリ ヨリ渡テ處々ニ住居ヲ構ヘテ散
在スルナリ其人物甚長大ナラズ色ハ赤黒ク髮
ノ色黒シテ惣テ面潤ク鼻尖リ目深眉ウスシ垂
タル腹廣キ肩予脚ハ瘦タリ皆沿海ノ所ニ住ム
其飲食ハキワメテ穢シ黍タル狗ノ物クヒタル
器ヲソノマ、拭清ムルヲモセズニ用ルナリ
居所ハ土ヲ四五尺堀テソノ上ニ柱四本タテ

屋根ヲ造リ土或ハ草ニテヲ、フ上ニ四角ナル
穴ヲ穿テ烟出シ明カリトリ出入口ニ兼用ユル
ナリ渙獵ノミヲ業トス衣服ハ諸ノ獸皮ヲ以テ
綴リ接テ用ユ家具ハ石又鯨ノ骨獸ノ角等ヲ
以テホヲホリ凹ノ皿鉢ノコトクニシテ用ルナリ
魯西垂ヨリ来ル外銅鉄ノ器ヲ用ルヲ見ス
犬ヲ多ク養テ牛馬ノ如ク使フ雪中ニ氷上ヲ船
ニテ行ニ之ヲ用テ牽シムルナリ妻ヲバ何レモ
二三人ツ、持ナリ子ヲ産テモシ孳生ナレバ其

一ヲ殺ス以前ハ土人尤野鄙愚陋ナリシガ魯
西垂ニ服從シテ後寛保元年千七百四十年ヨリ女帝
ノ命ニテ天教ノ會士等ヲ遣シ按ニ千エプカ夷人ノ所謂ヨウロ
ウシイシヤナルモノナルベシ土人ヲ教導セシムルニヨツテ教
化モ行ハレ道理モ開ケタレバ遠カラズ善良
ノ民トナルベシ又一種ノ夷人アリクリレスト云
カムシカトカノ南ノ出崎及南ノ諸島ニ住ナリ
クリシルスノ一前ニ見エ守童云以上説トロロ
我眞蝦夷ノ風土ト符合ス故ニ洋ニノス然レモ
千子フカ諸島ニテ大ニ物ヲ牽スル一イマダキカズ
カラフトツ、キノ地方ハミナ同ジキコトカ

カムシカツトカニ魯西亜ノ小城五所アリ一ヲ
ホルスケレツコイト云ホルスカヤト云大河ノ側
ニアリペンシンスカヤノ海灣ヲ去ル一三十三ウ
エルステン 一ウエルステン三百五十九丈ニ當ル
ミウエルスタタル ウエルステン五百一拾七尺八分
日本一里ニアタル 城ノ大サ四方四十九丈ヲコ
ツコイ通商ノ船先ツ此地ニ来リ集ル故ニ甚繁
盛ナル地ナリ ニララツプルホルトカムシカツ
トカト云五ヶ所ノ内此城尤古シカムシカツト
カ河源ヲ去ル一六十九ウエルステンホルスケ

レツコイノ北二百四十二ウエルステンニ在リ
倉廩武庫ヲ設クニラ子一テルホルトカムシカツ
トカト云ラツプルホルトノ即位三百九十七ウ
エルステンカムシカツト河口ヲ去ル一三十ウエ
ルステン城ノ廣サ方二十八丈周リニ木柵ヲ構
フ四ラヤツツカト云元文五年 千七百四十年 二建ツアツ
ツカ河ノ港口ニ在リ 守童云今長崎ニ歸来ル魯
西亜ノ漂民仙臺石巻若宮
九船頭清兵衛其外口シヤヨリ 差越セル書状ニ
アツガト云アツモ疑クハ此地ナルカ
五ヲテキル下云 近コ口建タル城ナリテキル河

辺ニ在リ

カムシカツトカノ属島極テ多シ著キモノヲ左
ニ擧ク

クリルノ諸島ハカムシカツトノ南ノ崎ヨリ南
西ノ方ニ連綿シテ散在ス著キモノ二十五島
アリ一三曰三
十六其瑣々タルモノ数ヲ知ラズカムシ
カツトカニ近キハ皆魯西亜ニ從ヘ凡遠ハ別
ニ属スル所アルベシ或云此諸島カムシカツト
カノ方ヨリ初トシテロシヤ
ノ言ヲ以テ第一島第二島ト此諸島ノ人タリ
次ヲ逐テ名ヲ余ジタリ

ルノ人ト互ニ交易ヲナス日本ノ人モ之ニ加ル
ナリウツルベ按ニエトコフ島ナルベシウルベ此二島ロシ
ヤニモ日本ニモ属セズ但交易ヲ通スルノミナリ
フラシド子デルニテカラムシノ如
キモノアリ布ヲ製シ
日本ノ縮木綿鐵器等ト交易スルナリ此島ノ東
南ニクナシリト云蝦夷ニ属シタル島アリ又マ
ツマエト云大島アリ日本ト一線ノ海路アリテ
之ヲ隔ツ此島既ニ日本ニ從ヘリクナシリノ人
ニ之ヲ審ニスルニ此海路ノ隔アルヲ云ヘリ此

島南北九六百里アリ日奔人エゾト名ク
子ルシニスキハ黒竜江ノ岸ニアリ北極五十二
度ノ地ナリ千六百八十九年元祿城郭ヲ築キ
支那ト疆ヲ固メ此地ヨリ北京ト交礼ノ
使節ヲ通ス

荷蘭全世界地圖書 訳ニ云 此書寛政年間舶来ス
ル所ノ圖ナルベシ紅
毛通詞本木仁太夫 一ノ符号ノ横文字ノ文ニ云
ナルモノ 翻訳ス
此地圖ハリユスラント国 即ロシ
ヤナリ 閣老ノ筆記
役ヨハン子スケイリロウト云シモノ一千七百三

十四年ニ當テ出シ与フル地圖ニ從テ正補シタ
ル地圖ナリ船主スパンベルゲト云シ者カムシ
カツトノ地ヨリ船ヲ乗タル説ヲ記録ス三ノ符
号ノ横文字ノ文ニ云去ル土曜日ニ當テカムシ
カツトノ地ノ説ヲ記シテ此地ニ飛脚一人參着
セシナリ船主スパンベルゲト云シ者カムシカ
ツトノ地ヨリ大船四艘ヲ以テ海ニ浮ミ十六日
海路ヲ乘リ大小ノ島三十四島ヲ見開キ彼陸ニ
至ラント思ヒ小船ヲ六艘造テ之ノリ彼地ヲ

見聞ンカ為二人ヲ陸ニ至ラシム土人町噤ニ應
對ス言語ヲナスヲ能ハサレモ錢ヲ見セシム船
主ノ上ニ裁配ノ人ニハヤリンキト云シ人アリ
彼レニ此事ヲ知ラシメズシテ船主自ラ彼地ニ
至ラシテ議シ船主カ大君ノ重ニ一事ナル
故ニ人ニ知ラシメズ彼ガ利欲ニシテ已カ大君
ノミニ披露センコトヲ思ヘリ是ニ因テ裁配ノ人
謀ヲ成シ彼ノ地ニ至テ春ヲ歷タリ意フニ日
本ノ島ナラシカ彼ノ地ヨリ持来リシ一文ノ小

銅錢大サ和蘭錢ノ如ニシテ少ク厚ク平ニメ周
郭高シ中ニ方孔アリ其方孔各方ノ傍ト線トノ
間ニ一面ニハ文字アリ日本ノ文字或ハ支那ノ
文字ナランカ一面ハ無字ナリシトペーニテ
スビルグノ地一千七百四十年正月十三日
蛮書云^{ヨーロッパ}ツトル^{トルコ}コ^コ 王^バ國^{リア}西^ア別^ア里^ア此
地極テ廣大ニシテ沙漠ヨリ北ノ方氷海ニ傍テ
其東ハ東方ノ大洋ニ至リ蝦夷ノ東北カムシカ
ツトカニ至ルマデ皆此部内ニ隸セリ

蝦夷双紙云魯西亜人イシエユ云カムサスガノ
北ニ子ヨウキケト云国アリ北極六十度ニ及フ
ト云蝦夷ニモアラズ魯西亜ニモアラズ国主モナ
カリシカ近來魯西亜ヨリ服従セシメ国ノ名ヲ
改テアナカデルスコイト云此国ニ大河アリ
アナデリト云因テ名トスラレニト云獸アリ此国
ヨリ北ハ小島ツ、キニテ西時氷海ナレハ通船
スルヲ能ハズ北極六十餘度ニ及ブト云此国ノ
人山獵ヲ業トス守重按ニ魯西亜志ニ云アナデ
ル河ハカムシカツトカノ北ニ

アリシントトイコス峯ノ東ヨリ大東洋ニ往ク
又云アナジルスキハ東北ノ隅ニシテアナシル
河岸ニアリ北極六十度ノ地ナリ此地猶イマ
タ全ク本国ニ服従セズ其地ノ尽头ニ大ナル地
アリ之ヲカムシカツトカト云

魯西亜聞畧 イシエユサスノスコイノ 云ヲロシヤノ
話ヲ記ス中村某ノ記

国南ハ韃靼 清朝天竺ノ境トス清朝ノ方ハ
アモルト云大河ヲ国境トシテ魯西亜ノ国内
セバフタト云所ヨリ兩國ノ交易アリ此処ヨリ北
京エ近シ本国ヲモスクワト云ベテルポルイリ
コトツケ イヨコツカ ヲホツカ カムサスカ

千ヨウキチ等ノ地アリヲホツカカムサスカハ
 東北ノ海濱寒國ニテ穀類ナシイリコツケ邊ヨリ
 飯糧運送ス産物皮類多シ此処ヨリ東北ノ諸島
 獵船ヲ出スウルツブ島エモ十六ヶ年ホド以來
 獵虎獵ノタメ年々来ルヲホツカハ守護一人下
 役四十人小役二百二十人イリコツケヨリノ勤
 番所ナリ當時守護人ノ名イワシヒヨウドロイ
 シヨベンゲンカムサスカノ奥蝦夷ノ島ト近シ
 守護人下役二十人小役百人餘當時守護人ノ

名 フランスイシヨリニキニ其里程ハ^{ノナシ}島ヨリ^ウ
 ルツブ 海路五百五十ウエルスタ^{此里數百五十}
 島マテ^{里ウ}海路八百ウエルスタ^{此里數二百二十二里}
 ヨリカ^{餘曲尺七尺二寸ラ}道 海路八百ウエルスタ^{五百合}
 サスカ^テ合シテ一ウエルスタト云^{七ウエルスタ}
 五百合^ハシテ一ウエルスタト云^{是ハ}海路ヲ積ル^{陸路}
 以テ積ナリ^ハ唐國ノ境ニセ^フフタト云^ルア^リアモルト云^大
 河ヲ境トシテ北京ト交易ヲナス兩國ヨリ番所
 ヲ立テ境ヲ守ル北京ノ交易ノ直段アラマシ下ノ
 如シ獵虎皮^{一枚}代^{緝木}綿^皮一^枚代^同狐^皮一^枚代^同
 百五十^反及^ホト

三及 貂皮 一枚代同 白海豹皮 一枚代同 日本ノ一

程 及 ビタルヤト問フニ長崎ト云所アリテ紅毛

イスバニヤノ人年々来テ交易ス其人又ラロシ

ヤエ来ルモノアリ故ニ詳ニ聞及タリト云又

一書ニ云 最上常 赤人イモユヨノ記スル所渡

海ノ里程尤ノ如シ

ノツカマツプトクナシリノ渡 六十エルスタアリ 即十六里二十四

町クナシリトエトロフノ渡 二十一エルスタ即 五里三十町

エトロフトウルツプノ渡 六十五エルスタ 即十八里二町 ウル

ツプ徑 百五十エルスタ即 四十一里二十四町 ウルツプト子リポイノ

渡 三十エルスタ 子リポイノ間 即六里三十四町 七里二十八町 即十シモ

子リポイトシモシリノ渡 九百エルスタ 即二百五十里 カムサス

シリトカムサスガノ渡 九百エルスタ 即二百五十里 シモジリトヲホ

ガトヲホツカノ渡 九百エルスタ 即二百五十里 シモジリトヲホ

ツカノ渡 九百エルスタ 即二百五十里 シモジリトヲホ

云フ所大同小異ナリ今別ニ説ク 魯西亜紀聞云主 作ラズ其大畧ヲ見ルノミ

聘使アタムヲクスマンエゴトココフウリ 加藤某ノ記ナリ 斯バビコルフ三人ノ話ヲ記ス

カミシヤツカ家數百四五十軒代官省テ守ル大

川アリ船ハ川ノ内エ入レヲクヨキ洞泊アリカ
シヤツカヨリアミシ
一ツカ迄海上九千百里 同所ヨリ 千キリ迄
三百七十里 山越路ナリ家數凡二百軒代官
アリ千キリヨリヲホツカ迄海上里數凡八百里
代官アリ大船川エ入ル淺ハ海底砂ニテ淺シ故ニ
汐満ルヲ窺ヒ船ヲ入ル、ナリ陸ヨリ二百間キ
沖ニ右ノ砂瀬戸アリ外ニ洞泊モアリ戸數凡
二百軒餘同所ヨリヤコトツカ迄山越路凡千
十三里代官アリ戸數凡五百軒此地昼夜朦朧トシ

テ明ナリ然レモ暮ニ至テハ少シ暗シヤコトツカ
ヨリイルコトツカ迄 里數凡二千四百八十六
里川ヲ沿フル中三百五十里ハ旅館アリ戸數凡
二千百六十軒代官アリカミシヤツカ 千キリ
ヲホツカ ヤコトツカ 等ノ代官ハ皆當所代官
配下ナリ同所ヨリ魯西亜ノ都ペテルボル迄凡
五千八百二十三里 古都モスクワヨリ 今ノ都エ
五十一里 日本ノ一里ハ フロシヤノ三里トイル
コトツカヨリ 日本ノ間ニテ 二百六十間ナリ
満州迄 レト云 凡四百五十里大

川アリ兩國ノ境トス川ノ名ヲエシカアモロト
云黒竜江ノナリ支那ヲキタエスコイト云支
那ノ都ヲペーキント云王ヲハント云サバリン
ノ島周廻凡七百里支那ノ夷ゲレヤスト云者居
ルヲホーツカニ阿蘭陀人六人住居スルト云
イルコーツカヤコウツカ共ニ雪フラズ寒氣ハ
至テ甚ト云シロシヤ人冬ハ雪橇ニノリテ往來ス
橇ハ犬ニヒカセルナリ犬ハ皆尾ト陰囊ヲキル
又馬モ陰囊ヲキルナリ如此スレハ精氣衰ヘス

シテ強シト云陰囊ヲキリ玉ヲ取捨テ其アトエ
塩ヲ入テ縫トナリアメリカ人鼻ニ穴ヲ通シ
牛ノ鼻クリノ如クシテ骨ニテ牙ノ如ク拵エ其
穴ニ通シテ下エ垂ル下唇ヘモ穴ヲ通シ骨ニテ
牙ヲ拵ヘ下ケ置其人此度兩人來レリ守童云垂
書ニウユ
ホフニ北アメリカノ人頬アミセイツカノ女下
ニ牙ヲ通セシ圖アリ
唇ニ穴ヲ通シ骨ニテ牙ヲ拵ヘ其穴エ通シ下ヘ
垂ル惣身文ニスヲロシヤ國ノヲホーツカヨリ
松前ノ東夷子ム口追海上里數凡千九百里ア

リ
ト
ゾ

[Faint, illegible handwritten text in vertical columns]



